

【出国】 2004.5.10.
関空からアムステルダム経由で
イタリアミラノへ

月 日	都 市	移動・主要スケジュール
5.10. (月)	関空発 アムステルダム発 ミラノ着	KLN 88 : 10:30→15:15 KLN 1631 : 18:10 →19:05
5.11. (火)	ミラノ	午前：専用バス 市内観光 午後：自由行動 ● 聖マリアの晩餐堂見学ツアー
5.12. (水)	ミラノ/ヴェニス	午前：専用バス 移動 ● ヴェニス観光 徒歩・船 午後：ヴェニス観光 徒歩
5.13. (木)	ヴェニス	午前：自由行動
5.14. (金)	ヴェニス/フィレンツェ	午前：汽車移動 午後：専用バス 市内観光
5.15. (土)	フィレンツェ	午前：自由行動 午後：● ピサ半日観光
5.16. (日)	フィレンツェ/ローマ	午前：専用バス 移動 ● アッシジ 観光 午後：専用バス 移動
5.17. (月)	ローマ	午前：専用バス 市内観光 午後：自由行動 ● ローマ市内観光
5.18. (火)	ローマ	● カプリ島ツアー
5.19. (水)	関空発 アムステルダム発	AZ-108 : 11:45→11:45 KL-867 : 14:25
5.20. (木)	関空着	09:35



アムステルダム空港で 2004.5.10



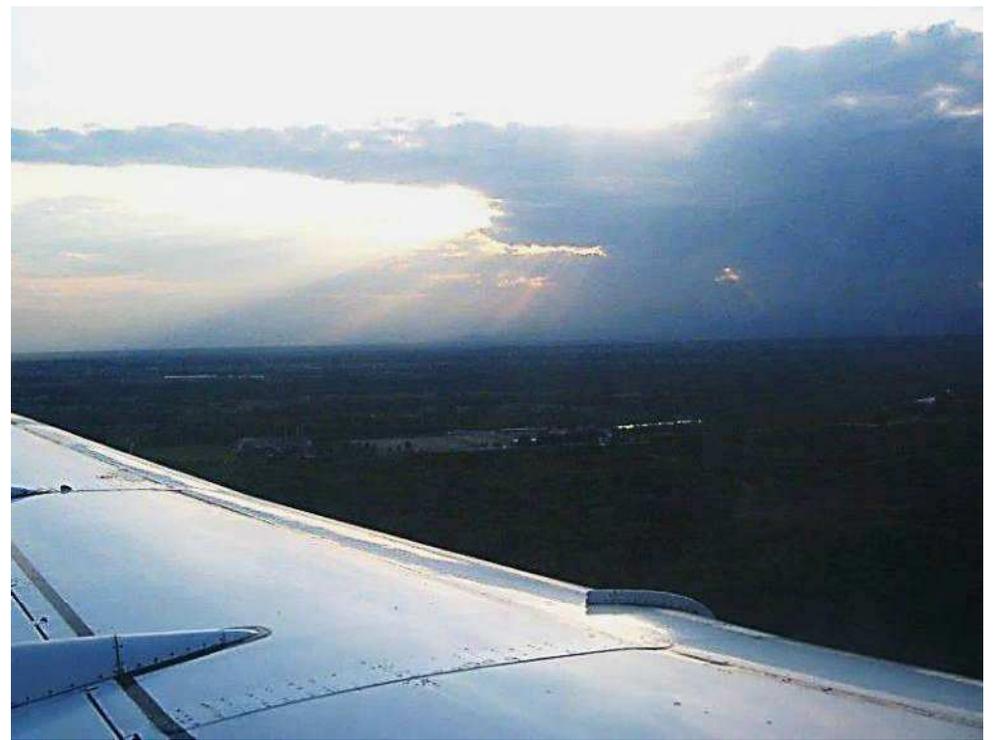
アムステルダム空港で 2004.5.10



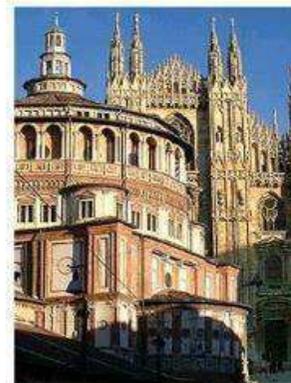




ポー川流域はイタリアの水田地帯



ミラノ空港 2004. 5. 10.



歴史と芸術とファッションの街 ミラノ

ミラノと言えばファッションの街。中心地にあるモンテナポレオーネ通りにはヨーロッパの最新ファッションが軒を並べ、インドウを飾っている。

一方、ローマのサン・ピエトロ寺院に次ぐ大きさのドゥオモがあり、ルネサンスの天才、レオナルド・ダ・ヴィンチが描いたただ一つの壁画「最後の晚餐」がある。

ダ・ヴィンチの patron だったロドリゴ・スフォルツァの居城のスフォルツァ城もきれいな形で残っている。その中にある美術館にはぜひ。

左の写真はドゥオモとサンタマリア・デラ・グラツィエ教会を合成したものだ。共にミラノを代表する教会。

また、少し離れているが、南にあるナヴィリオ地区には、現代アートのギャラリーがあり、市もたつ。ノミの市のような市場は色々なものを売っていて、見るだけでも楽しい。

ロケーション

イタリアの北部、ロンバルディア州の中央に位置する、この州の州都。国際空港のミラノ・マルペンサ空港とヨーロッパ路線が乗り入れるミラノ・リナーテ空港があるので、ミラノには空路から入ることができる。

陸路から行くには、ローマ・フィレンツェ、を経てミラノに入る幹線の鉄道があり、インターシティやユーロスターが走っている。また、ヴェネツィアからも幹線が繋がっているためミラノに入るのも出るのも快適である。



ミラノの歴史

ミラノは最初「メディオラルム」と呼ばれた。中央の場所という意味でケルト族が呼んでいたものをそのままラテン語に変えて呼ばれていた。紀元前222年ローマがここを征服した。

ミラノが歴史的に重要な街となったのは、紀元3世紀末で、ローマ皇帝がここに住むようになってからである。そのままローマにとって重要な都市であり続ける。コンスタンティヌス帝がキリスト教を公認する「ミラノ勅令」を公布したのは、313年だ。

5世紀になると皇帝はラヴェンナに移り、北からはランゴバルド族がやってきてミラノは荒廃した。

その後、コムネの時代があり、神聖ローマ皇帝の支配の時代があり、それを脱して教皇の支持する領主（デッラ・トッレ家）が支配する時代が続いたが、13世紀末に皇帝派のヴィスコンティ家が勝ち、ミラノを支配する。

そんな中、傭兵としてミラノに入り、娘婿になっていたスフォルツァ家が次第に力を付けていった。強力な支配者だったジャン・ガリアツォ・ヴィスコンティがベストで急死すると、幼いフィリッポ・マリア・ヴィスコンティに代わって娘婿のスフォルツァ家が実権を握る。そして、その死後スフォルツァ家がミラノを支配した。

レオナルド・ダ・ヴィンチの patron だったロドリゴ・スフォルツァの時代に最も栄え、人口も10万を越えた。イル・モーロと言われたロドリゴはイタリア内での綱渡りに失敗して、16世紀初めにフランスに滅ぼされる。

その後フランスが支配し、それがスペインに変わり、170年間続いた。スペインが継承戦争で忙しくなると、同じハプスブルクの血を持つオーストリアが代わって支配した。マリア・テレジアが来て統治したこともある。スパイと間違われたゲーテがやってきたのはこの頃である。

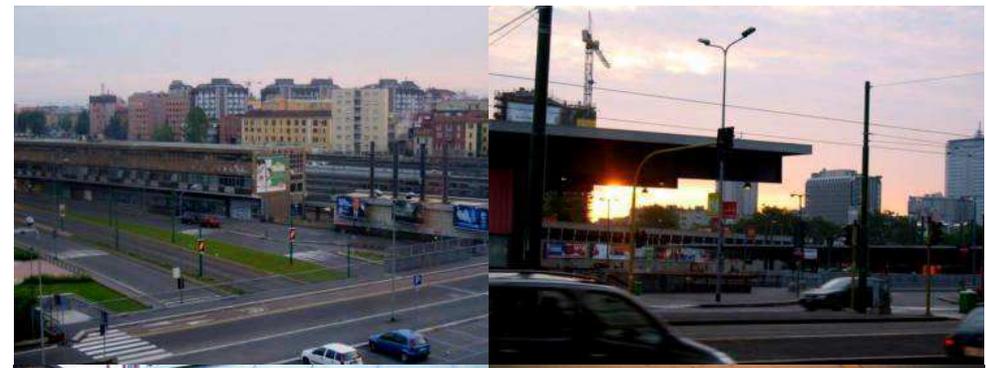
やがて1796年フランスに支配が移ったが19世紀にイタリアが統一され、ミラノもイタリアに組み込まれた。





ミラノ Walk ドゥオモと「最後の晩餐」 5.10.夕 - 5.12.朝

- ◎ 2004.5.10夕 ミラノ到着 夕食と投宿ホテル周辺の自由散歩 ガルバルディ駅見物
- ◎ 2004.5.11. 午前 専用バスで市内観光
午後 スフォルツェスコ城・「ドゥオモ」見学ほか市内観光名所・教会巡り
ダビンチ「最後の晩餐」鑑賞
- ◎ 2004.5.12. 朝 専用バスでベニスへ 丘の上に点々と古い街があらわれる田園風景





ホテル近く 再開発が進むガリバルディ駅のガード下はちょっと怪しげ



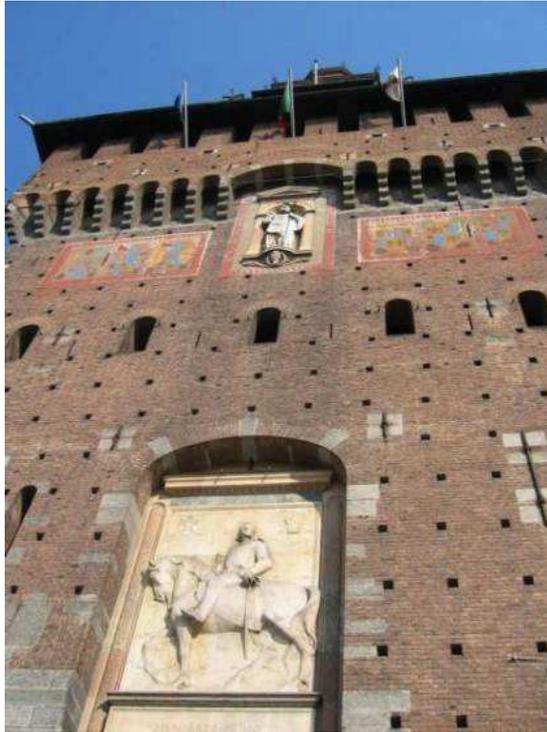


スフォルツェスコ城

スフォルツェスコ城は、ミラノを支配していた一族・ウージェーザの要塞です。1450年にスフォルツァ公爵により改築・増築されました。この時代にミラノが統治されていきました。その後改築や増築がされていきますが、ナポレオンに占領された後修復されるといった長い歴史がある場所です。



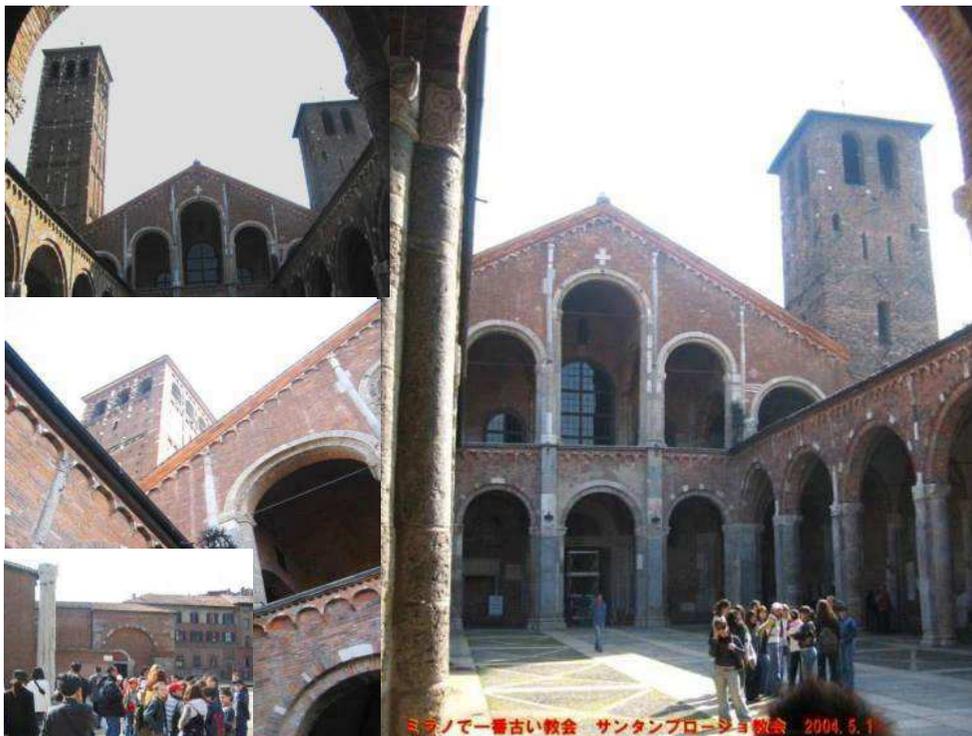
入口の正面に立つ塔は「フィレーチの塔」と呼ばれ、この塔の隅を正方形にして回廊が回り、内側には中庭があります。





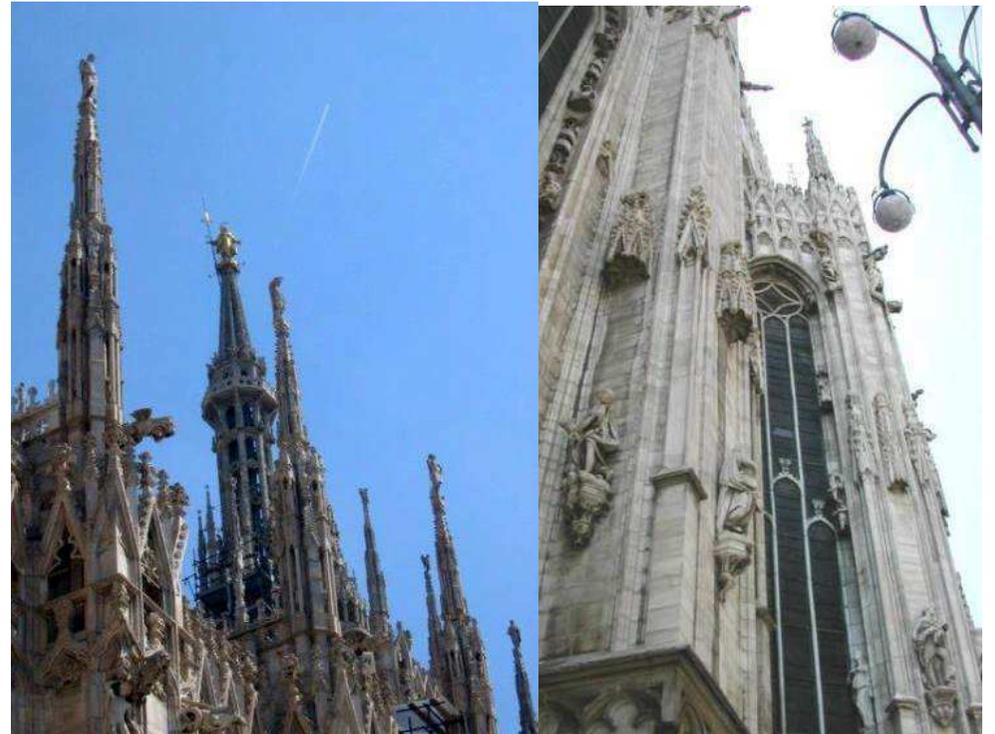


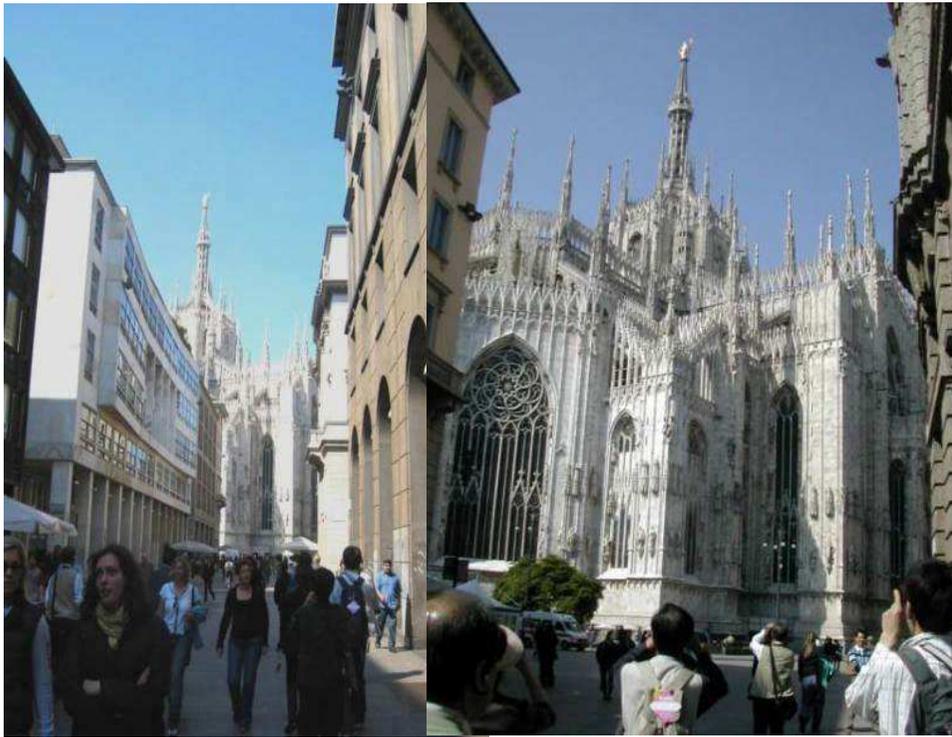
ミラノ中央駅「糸を通した針」のモニュメント 2004. 5. 11.

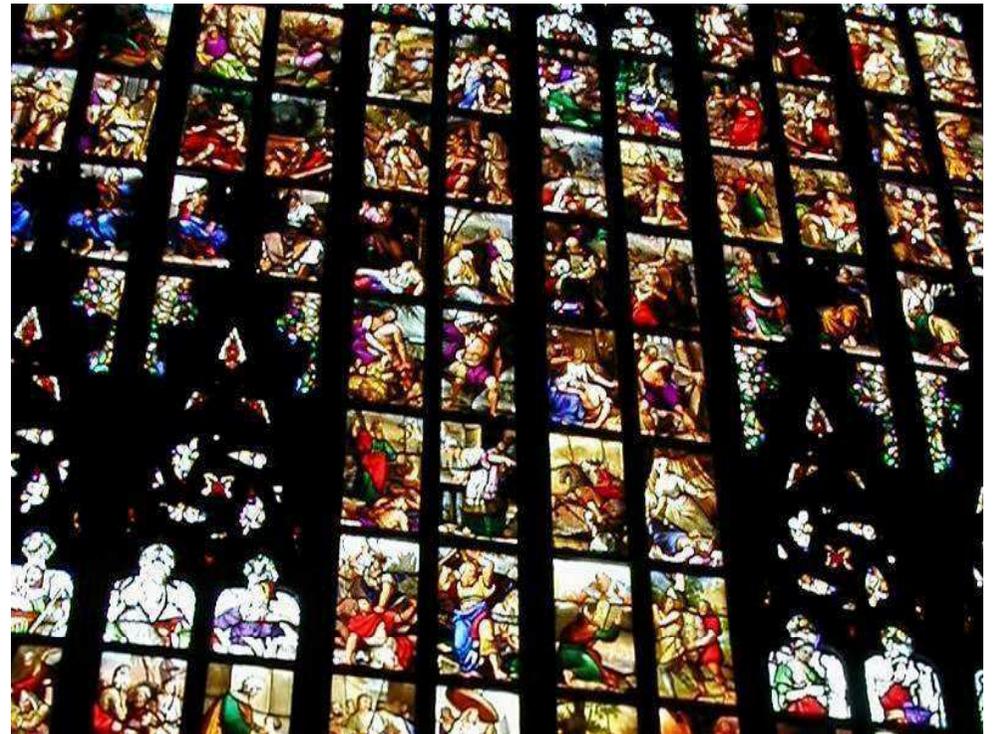


ミラノで一番古い教会 サンタンプロージョ教会 2004. 5. 11.















大聖堂広場 ダヴィンチの像



ダヴィンチの像



サンロレンツォ・マ焦ーレ教会

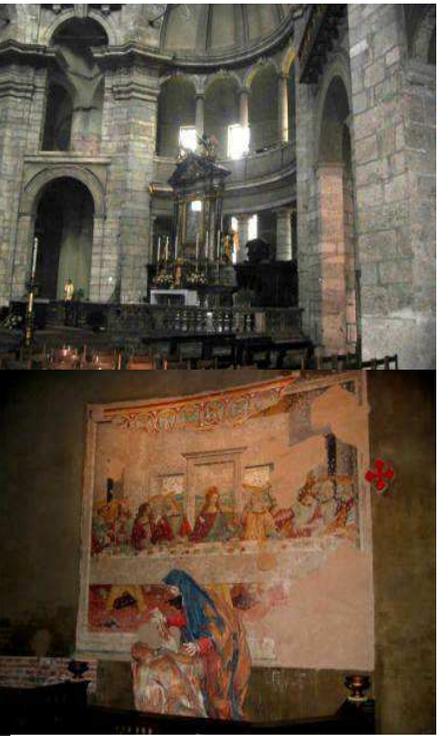
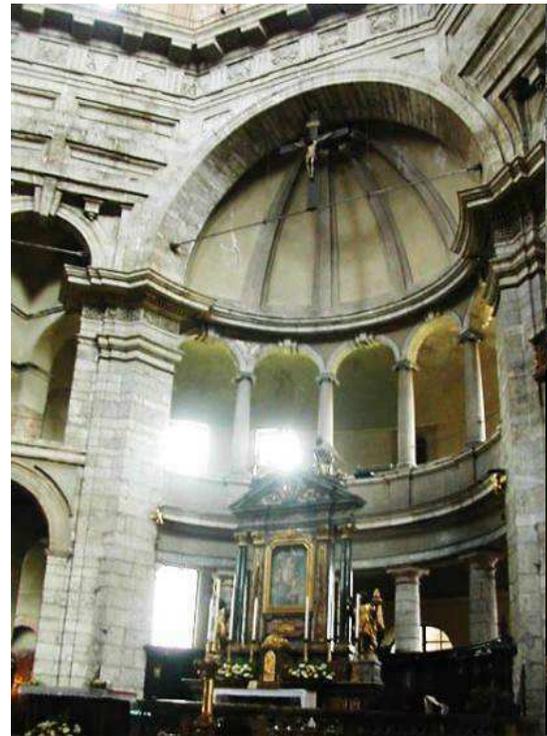


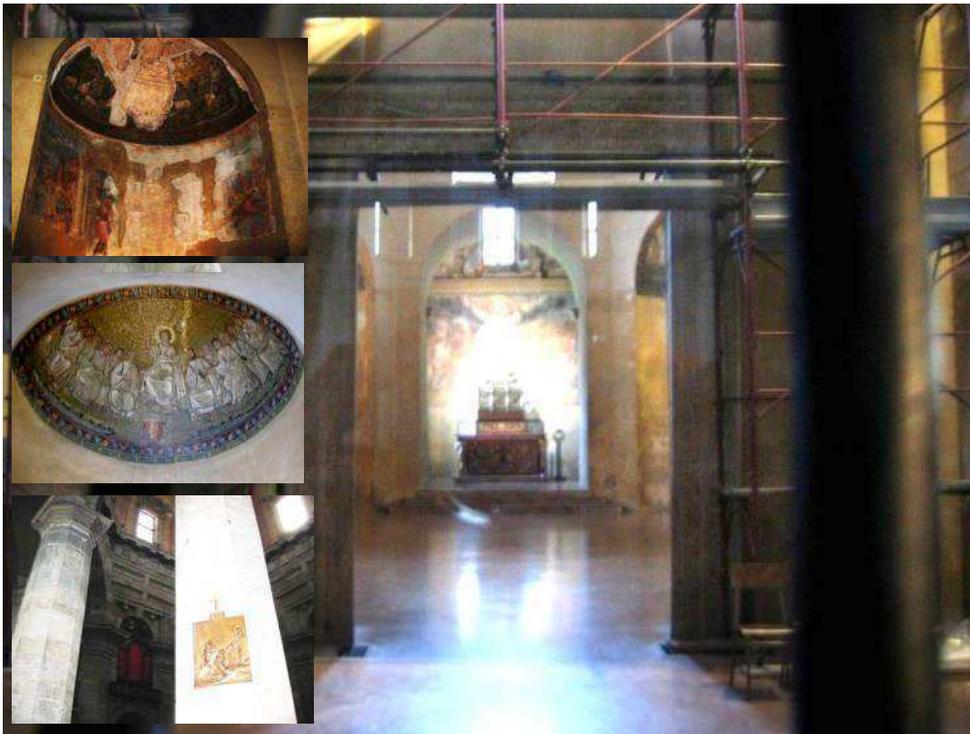
サンロレンツォ・マ焦ーレ教会



サンロレンツォ・マ焦ーレ教会

サンロレンツォ・マ焦ーレ教会

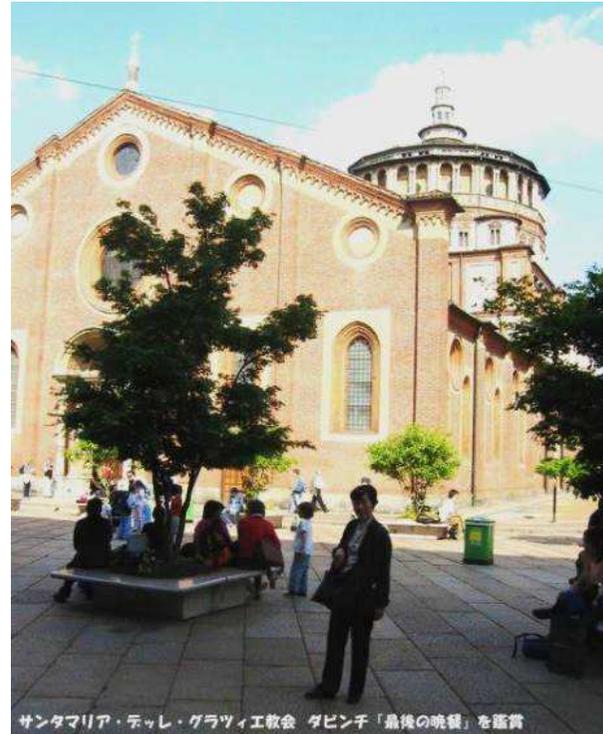
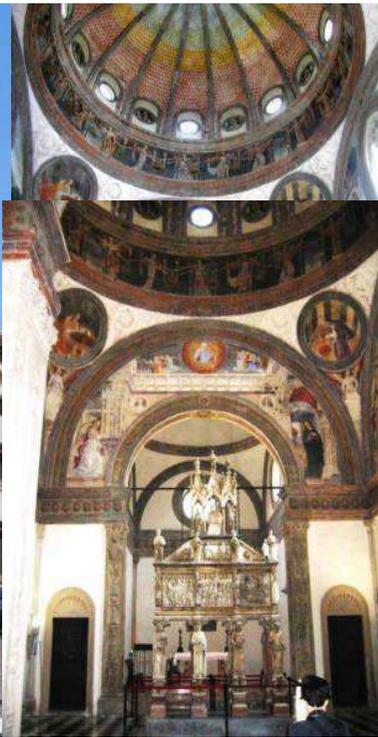






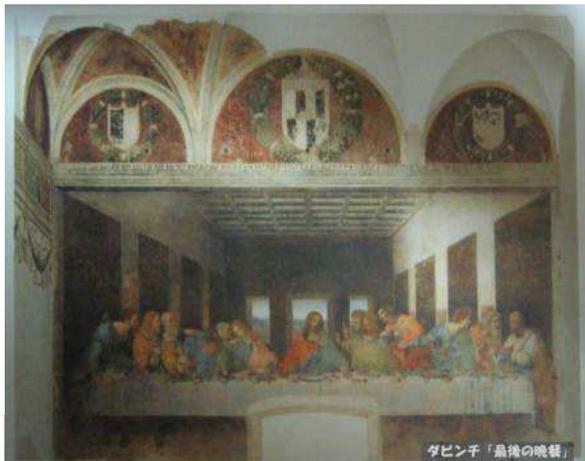


サンテウストルジョ教会 2004. 5. 11



サンタマリア・デッレ・グラツィエ教会 ダビンチ「最後の晩餐」を鑑賞





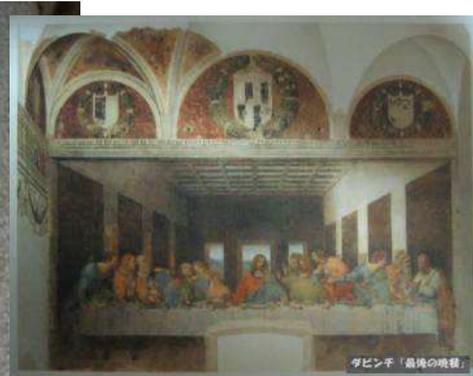
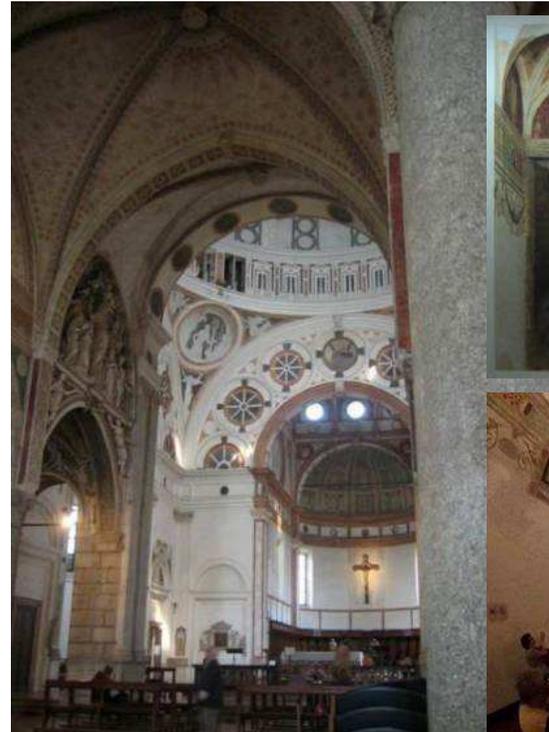
ダビンチ「最後の晩餐」



サンタマリア・テッレ・グラツィエ教会 ダビンチ「最後の晩餐」を鑑賞



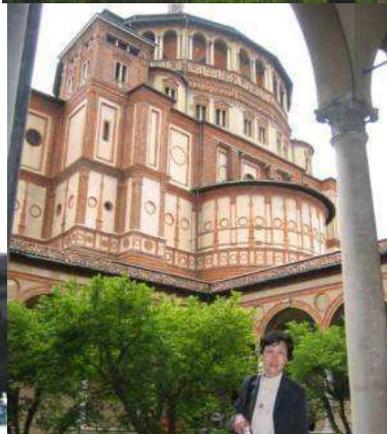
最後の晩餐の見学入口
サンタ・マリア・テッレ・グラツィエ教会の見学入口



ダビンチ「最後の晩餐」



サンタマリア・テッレ・グラツィエ教会



サンタマリア・テッレ・グラツィエ教会 ダビンチ「最後の晩餐」を鑑賞





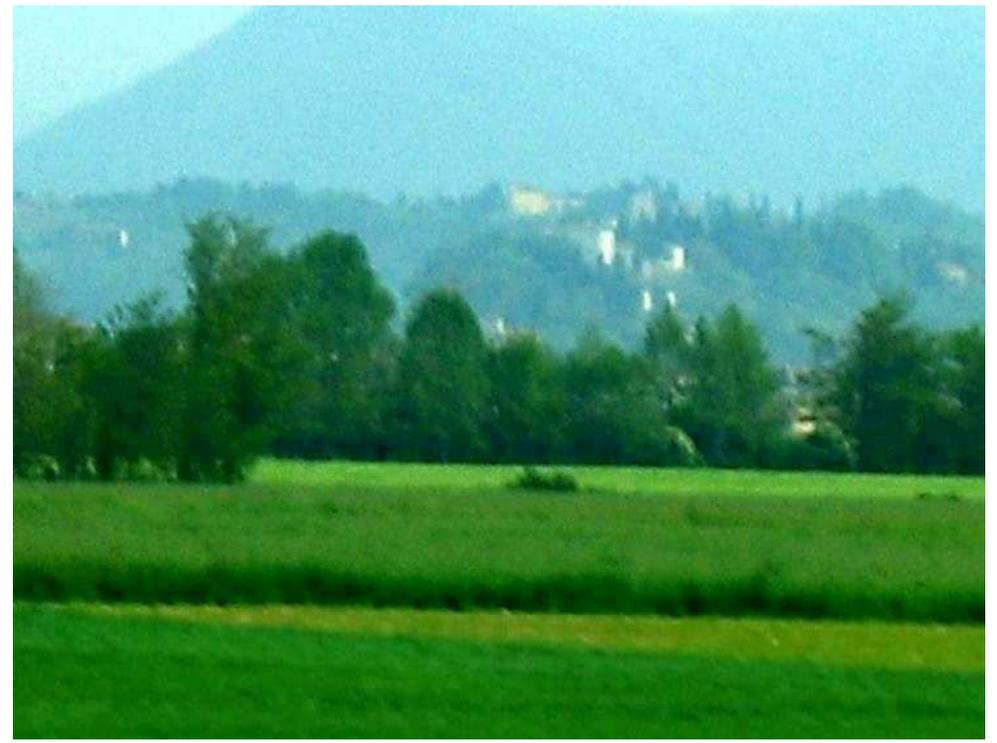
5月12日 専用バスで高速道路をミラノからベニスへ

ヴェニス Walk ゴンドラと水上の街walk 8.12.昼 8.14.朝

- ◎ 2004.5.12. 朝 専用バスでベニスへ 丘の上に点々と古い街があらわれる田園風景
水上都市ベニス サンマルコ広場とサンマルコ寺院見学
- ◎ 2004.5.13. 午後 ゴンドラに乗り、船頭が歌うセレナーゼ・ベニスの運河めぐり
- ◎ 2004.5.14. 午前 水上バスに乗って大運河 運河に沿ってベニスの街巡り
- ◎ 2004.5.14. 朝 ベニス サンタルチア駅より特急で花の街「フェレンチェ」へ



ミラノからベニスへ 2004.5.12.
ミラノ/新市街地 住宅地



high way 点描 2004.5.12.

- ◆ ハイウェイに沿って続く丘陵地 オリーブと葡萄畑
- ◆ 丘陵地の丘に点在する古城・鐘楼のある教会と村

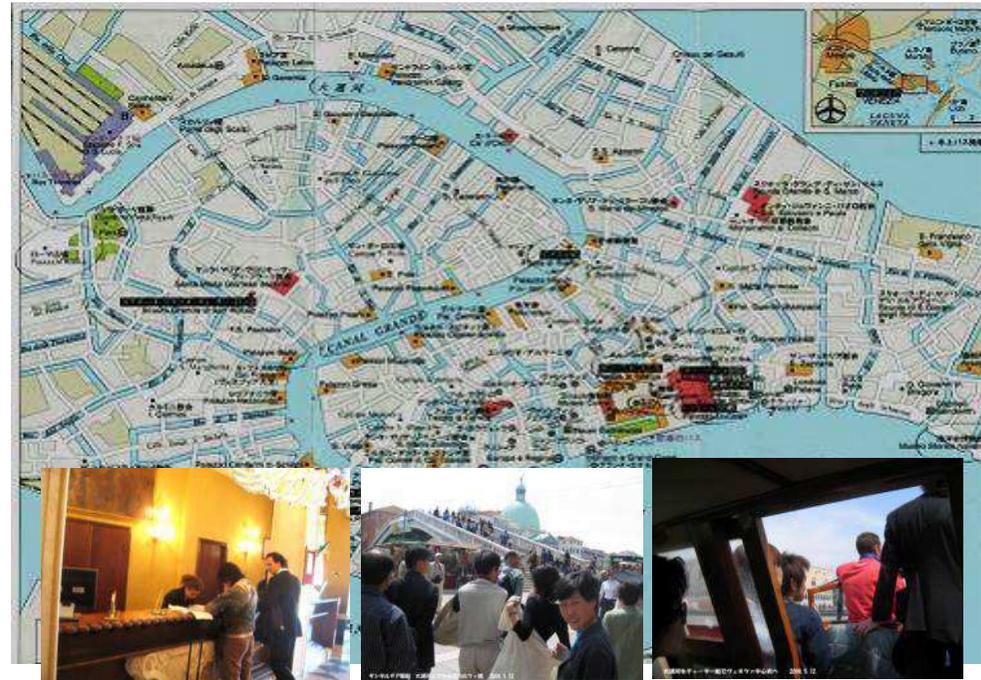
オリーブ



high way 点描 2004.5.12.

- ◆ ハイウェイに沿って続く丘陵地 オリーブと葡萄畑
- ◆ 丘陵地の丘に点在する古城・鐘楼のある教会と村





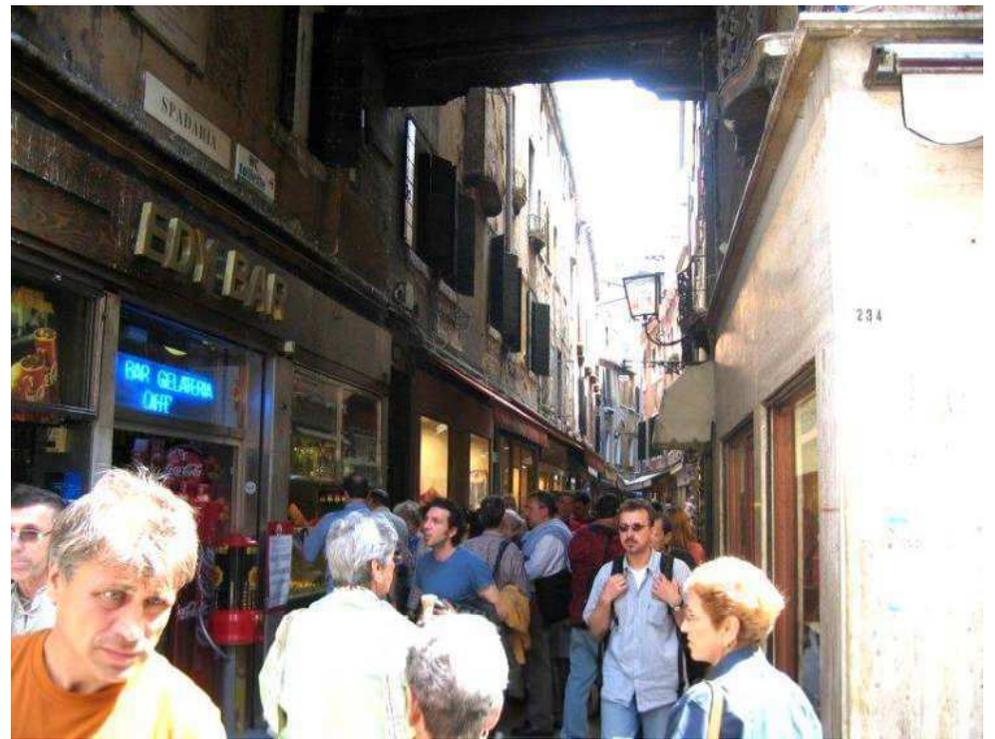
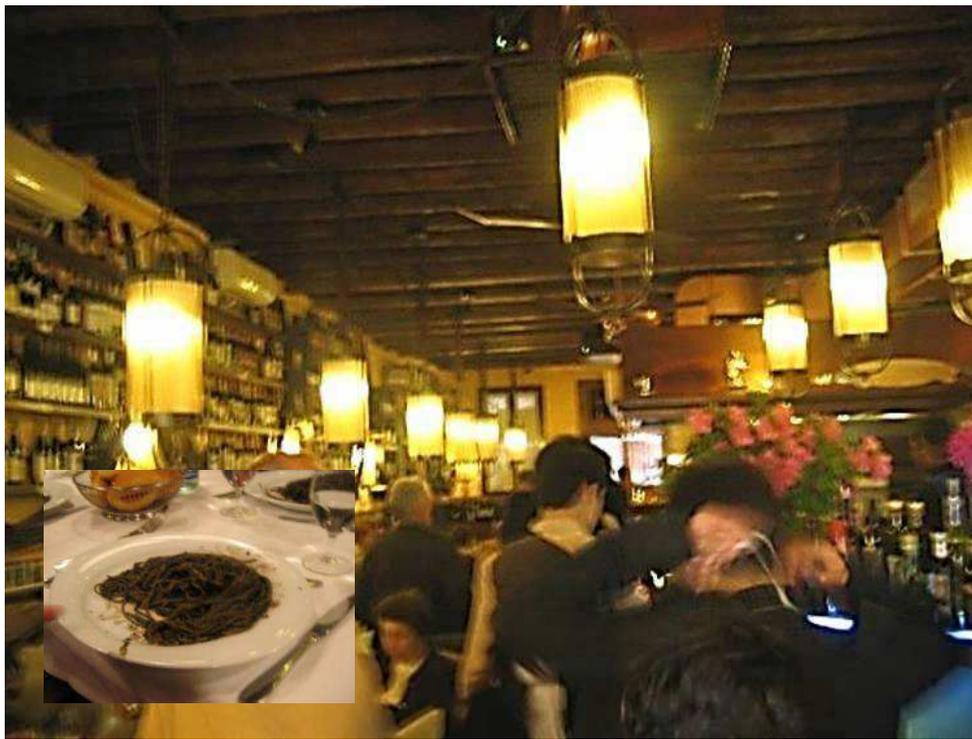
チェックインを済ませ、大運河をチャーター船でベニスの街の中心街へ



サンタルチア駅前 大運河にかかるスカルツィ橋 2004. 5. 12.



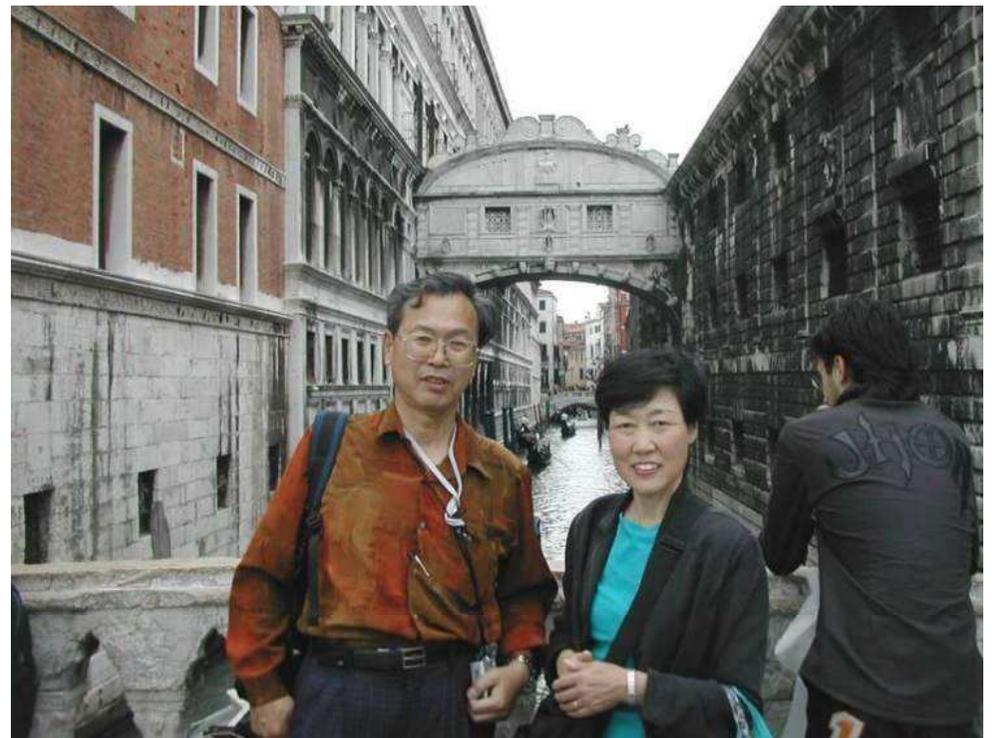
サンマルコ広場界隈の路地 昼食へ























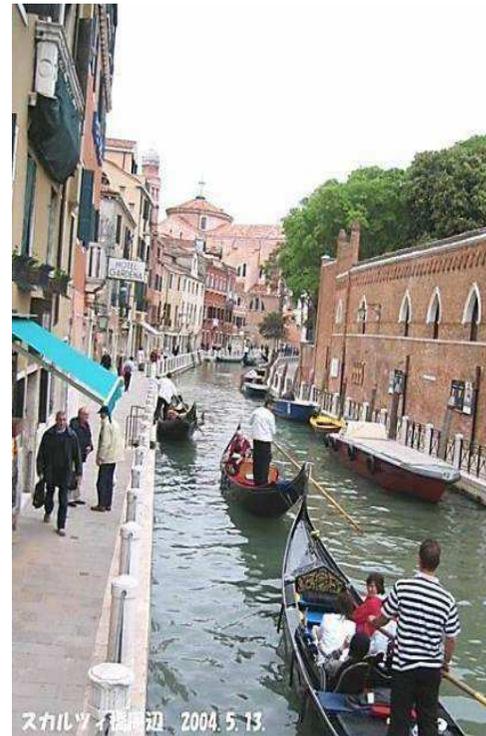
ホテルのテラスより 2004. 5. 13. 朝



ホテルのテラスより 2004. 5. 13. 朝



スカルツィ橋より大運河 2004. 5. 13.



スカルツィ橋周辺 2004. 5. 13.



水上バスでリアルト橋へ 2004.5.13



リアルト橋 2004.5.13







渡し船から眺めるサンマルコ広場 2004.5.13.

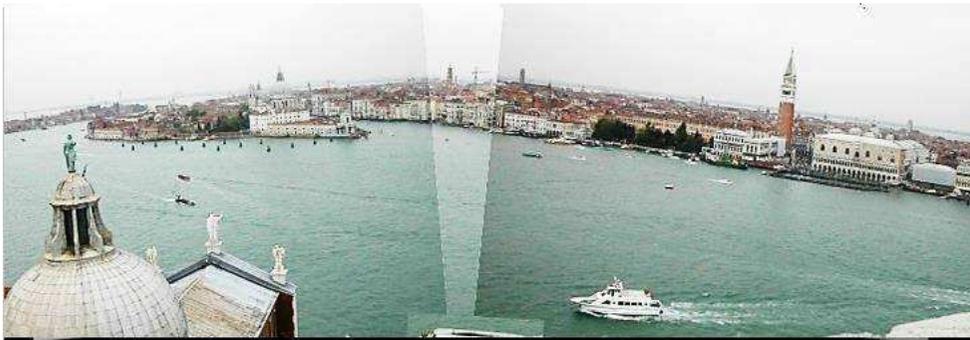


サン・ジョルジョ・マジョレー教会
サン・ジョルジョ・マジョレー島へ 2004.5.13.



渡し船から眺めるサン・ジョルジョ・マジョレー教会へ 2004.5.13.





サン・ジョルジョ・マッジョーレ教会からの眺望 北 ペニス側 2004. 5. 13.



サン・ジョルジョ・マッジョーレ教会からの眺望 (南側) 2004. 5. 13.







サン・ザッカリア船着場周辺 2004.5.13







テイツィアーノの
「聖母マリアの神殿奉献」





ベニスの中心街に戻って、大運河沿いに歩いて
アカデミア橋に戻って昼食



サンタ・マリア・デイ・カルミニ教会















夜の運河に映えるホテル「ボスコロ・ベツリーニ」 2004. 5. 13. 夜

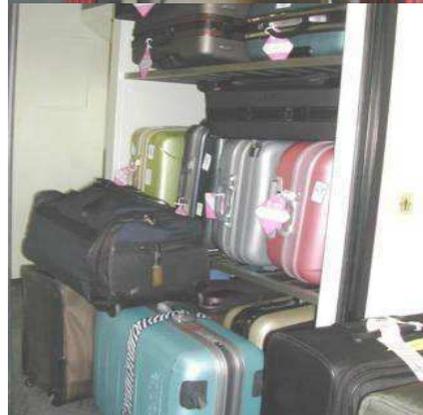
ユーロ特急でフィレンツェへ

ベニス サンタルチア駅で 2004.5.14.



- ◎ 2004.5.14. 朝 ベニス サンタルチア駅より特急で花の街「フィレンツェ」へ
花の都フェレンツェの街見学【1】 シニョーリ広場・ウフィツィ美術館
イタリアの巨匠の彫像・名画鑑賞と街歩き
- ◎ 2004.5.15. 夜 夜のフィレンツェの街歩き
午前 ドゥオモの塔上からフィレンツェの街眺望
午後 ピサの斜塔見学半日ツアー
- ◎ 2004.5.16. 早朝 アルノ川の対岸の丘 ミケランジェロの丘よりフィレンツェの街眺望
終日 バスで丘の上の街アッジジ見学をして タ方ローマへ入る









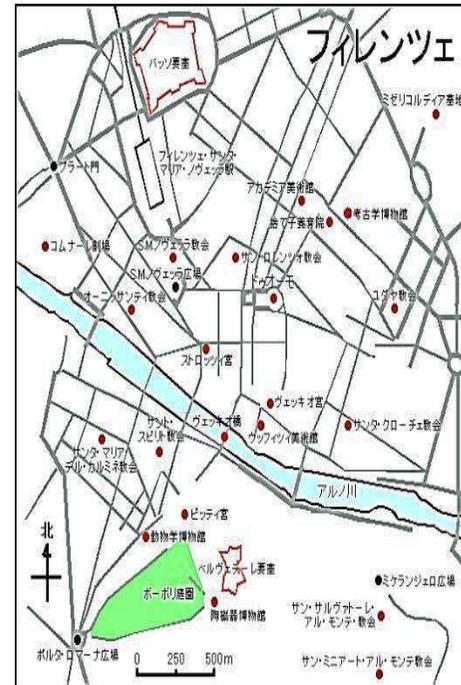
フィレンツェ中央駅 2004. 5. 14.
 サンタ・マリア・ノヴェッラ駅

**花の都フェレンツェの街見学 [1] シニョーリ広場・ウフィツィ美術館
 イタリアの巨匠の彫像・名画鑑賞と街歩き
 花の都フェレンツェの街見学 [2] 花の教会 ドゥオモ見学**

花の教会ドオモ・ウフィティ美術館もアルノ川もみんな歩いてゆける距離でも世界的な観光都市 観光客で街は一杯。ドゥオモもすぐそこに見える。

まずはきっちり予約時間が決められているウフィツィ美術館へ。世界の名品がそろった憧れの美術館。レオナルド・ダビンチやミケランジェロなど、イタリア芸術の巨匠たちの作品が並ぶ。ポッティチェリの「ヴィーナスの誕生」はぜひ見たい。ガイド付きの案内。まず第一に。

また、世界で一番美しいといわれる花の教会 ドゥオモ。ぜひ キュボラの上から街を眺めたい。そして、ゆっくり自由行動の街歩きも楽しみ。半日ツアーで行くピサの斜塔も興味津々

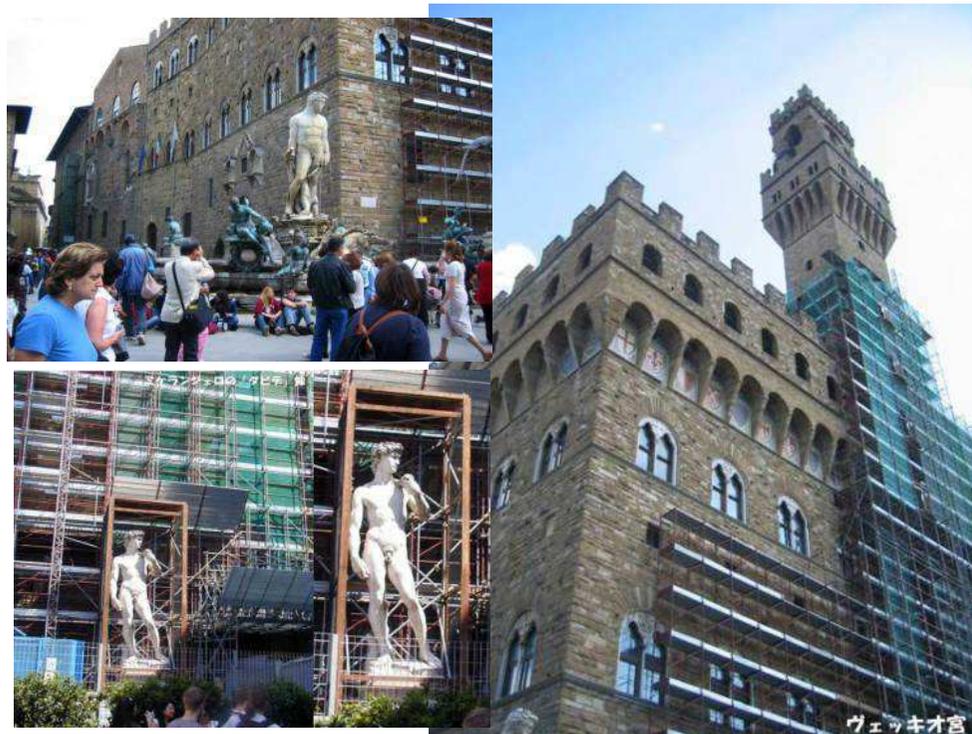




フィレンツェでの第一日目
 期待一杯で ウフィツィ美術館・ダビンチのダビデの像が立つベッキオ宮前
 シニョーリア広場へ 広場は観光客で一杯 憧れのフィレンツェに立つ











ウフィツィ美術館の回廊からながめるアルノ川 ベッキオ橋

花の都フィレンツェの街見学 [2] 花の教会 ドゥオモ見学



サン・ジョヴァンニ洗礼堂
フィレンツェ「ドゥオモ 絶景音より」

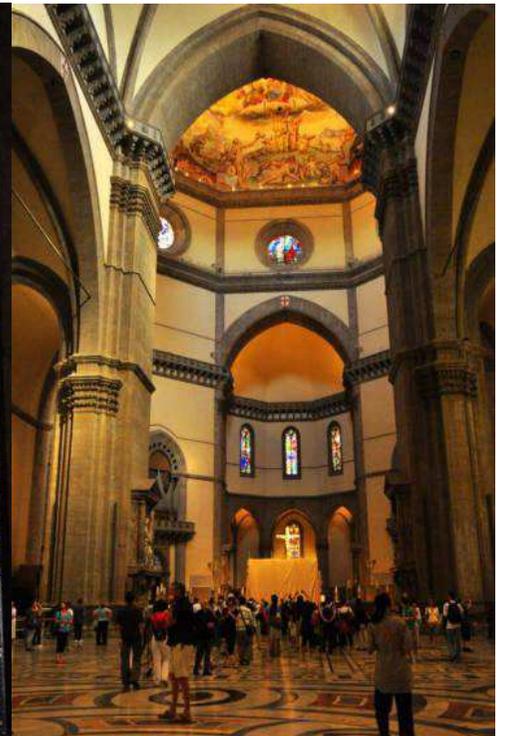
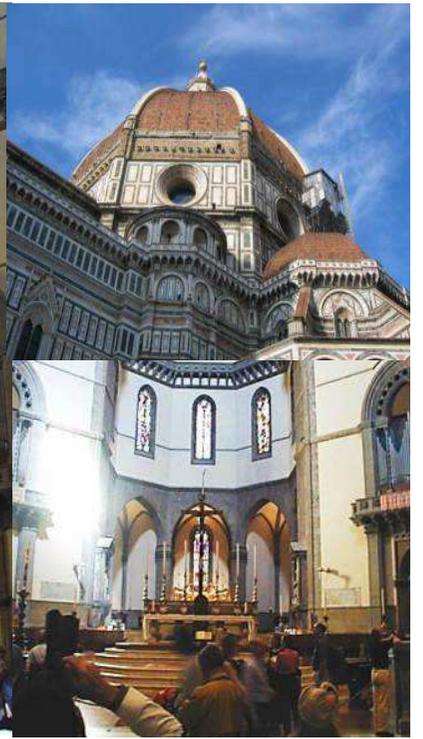
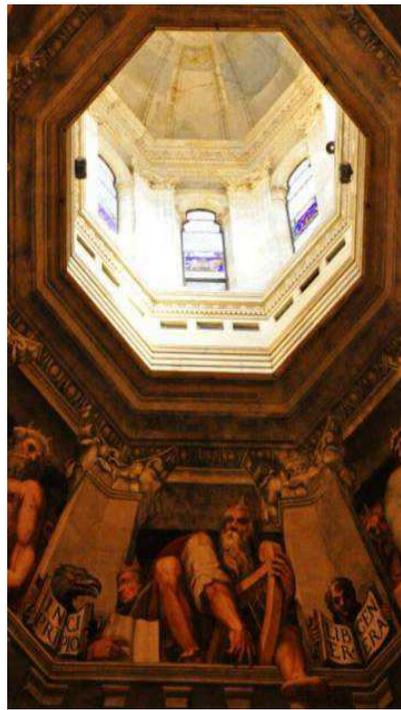


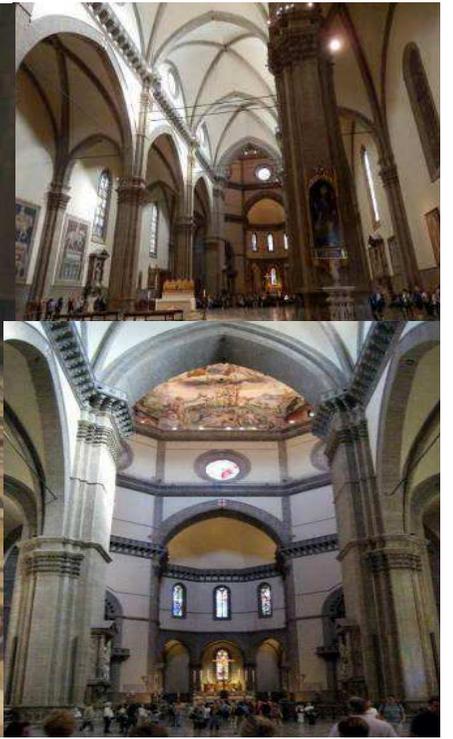
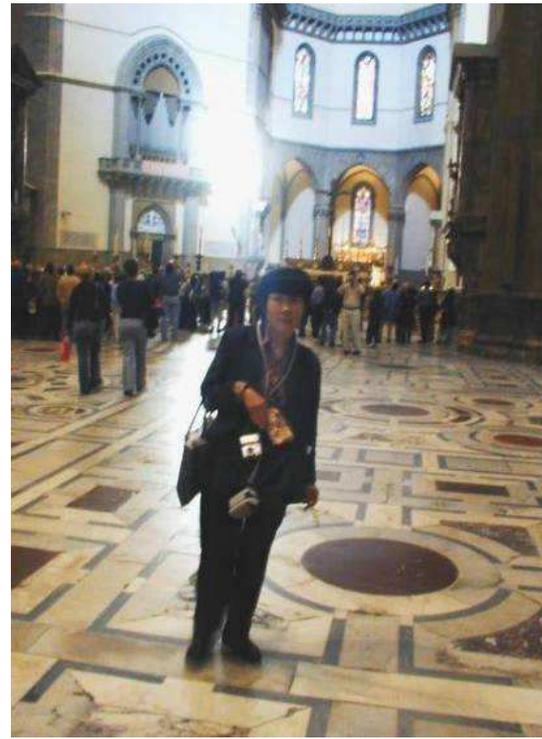
フィレンツェ ドゥオモ 絶景音より



ドゥオモ 2004.5.14.



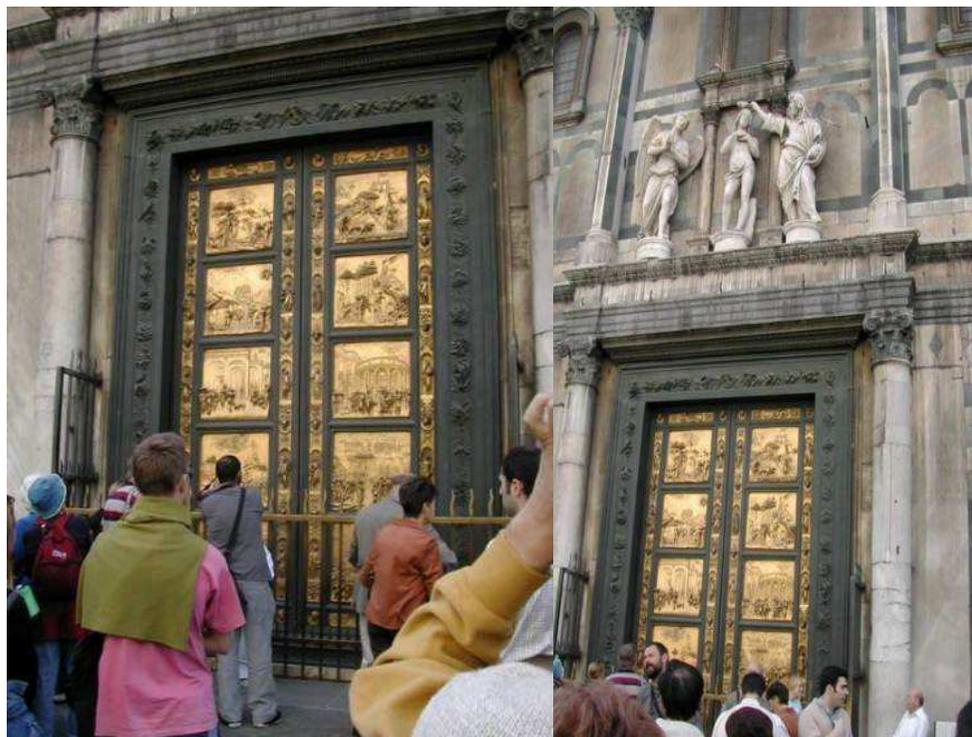




サン・ジョヴァンニ洗礼堂

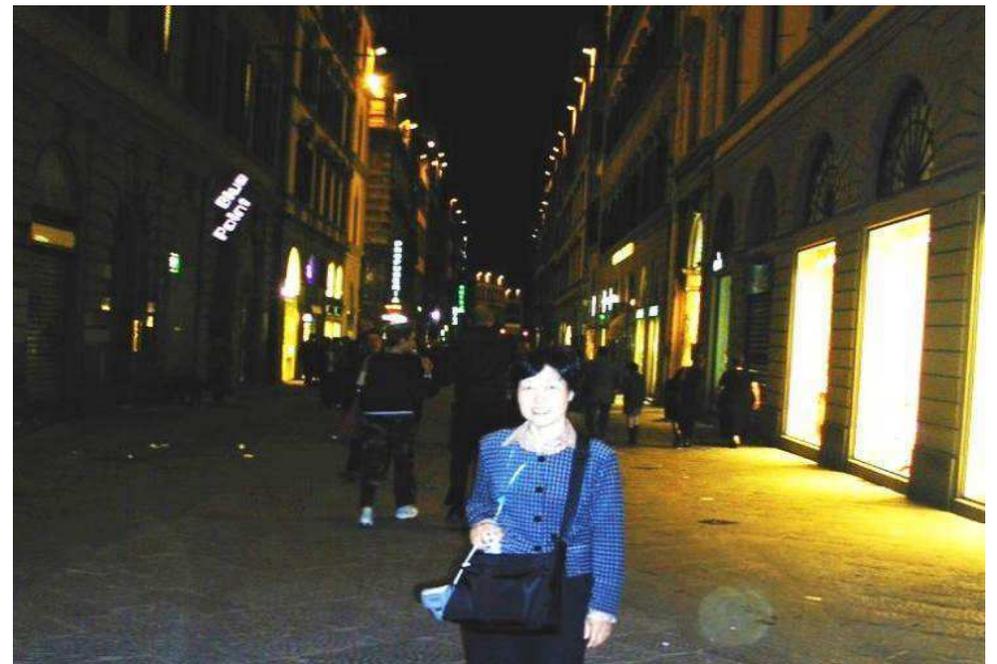


サン・ジョヴァンニ洗礼堂「天国の扉」



サン・ジョヴァンニ洗礼堂
フィレンツェ ドゥオモ 絵葉書より





食事後夜のフィエレンツェの街歩き 2022.5.14.夜
ドゥオモ界隈から シニョーリオ広場を抜けて、アルノ川 ベッキオ橋界隈へ



ドゥオモ・ベッキオ橋界隈 2004.5.14.夜



フェレンツェ ドゥオモ界隈で 2004.5.14.夜



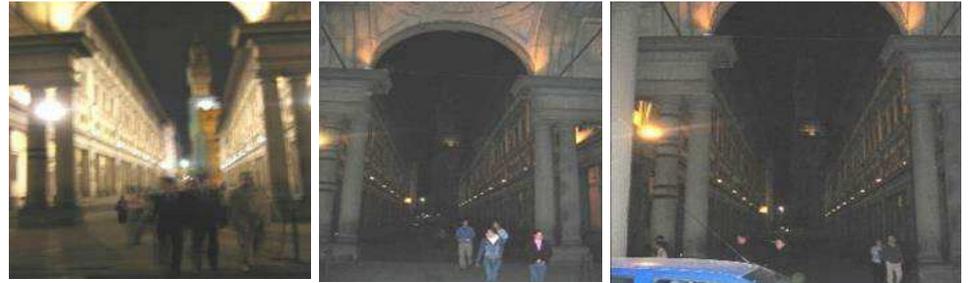
ドゥオモ・ベッキオ橋界隈 2004.5.14.夜



ドゥオモ・ベッキオ橋界隈 2004.5.14.夜



ドゥオモ・ベッキオ橋界隈 2004.5.14.夜



にぎやかなドゥオモ界隈から昼の喧騒がうのように静かなシローニア広場・ウフィツティ美術館の横を抜け、アルノ川の川岸へでて、にぎやかなベッキオ橋界隈へ



夜のシローニア広場 2004.5.14.

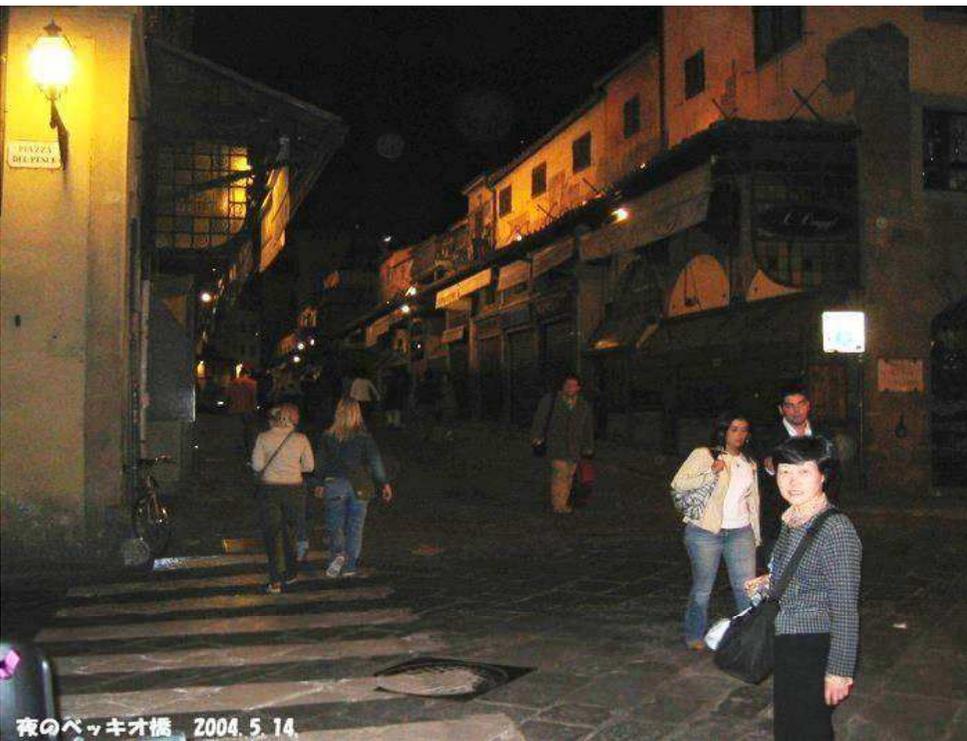


夜のアルノ川 ベッキオ橋 2004.5.14.夜

夜のアルノ川 ベッキオ橋 界限で
イノシシの噴水 2004.5.14.夜



夜のアルノ川 ベッキオ橋で 2004.5.14.夜

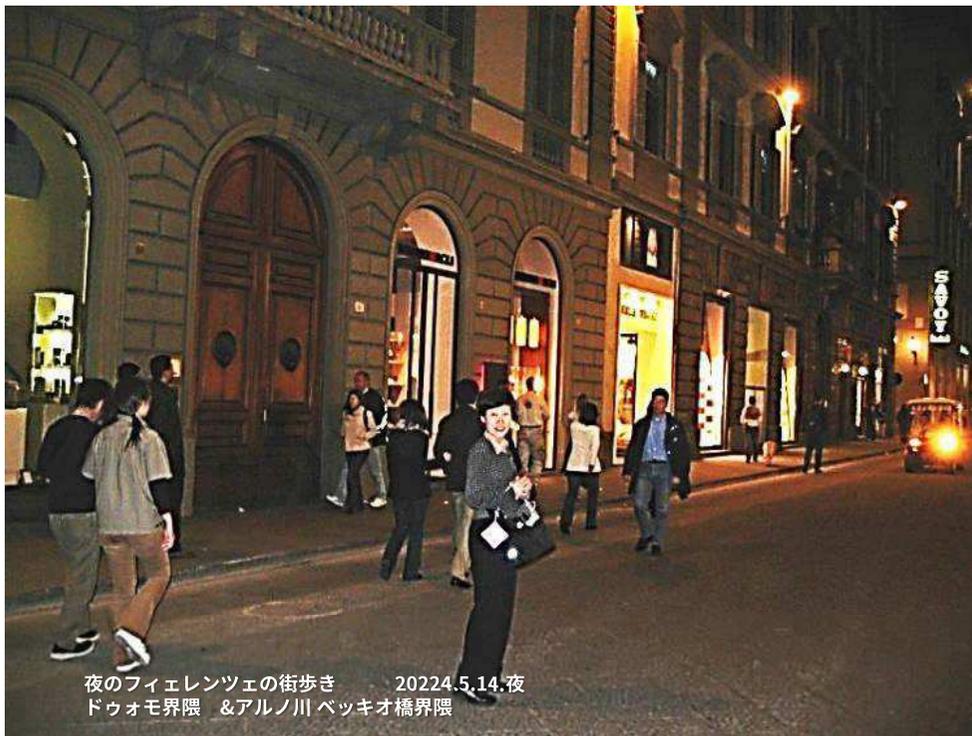


夜のベッキオ橋 2004.5.14





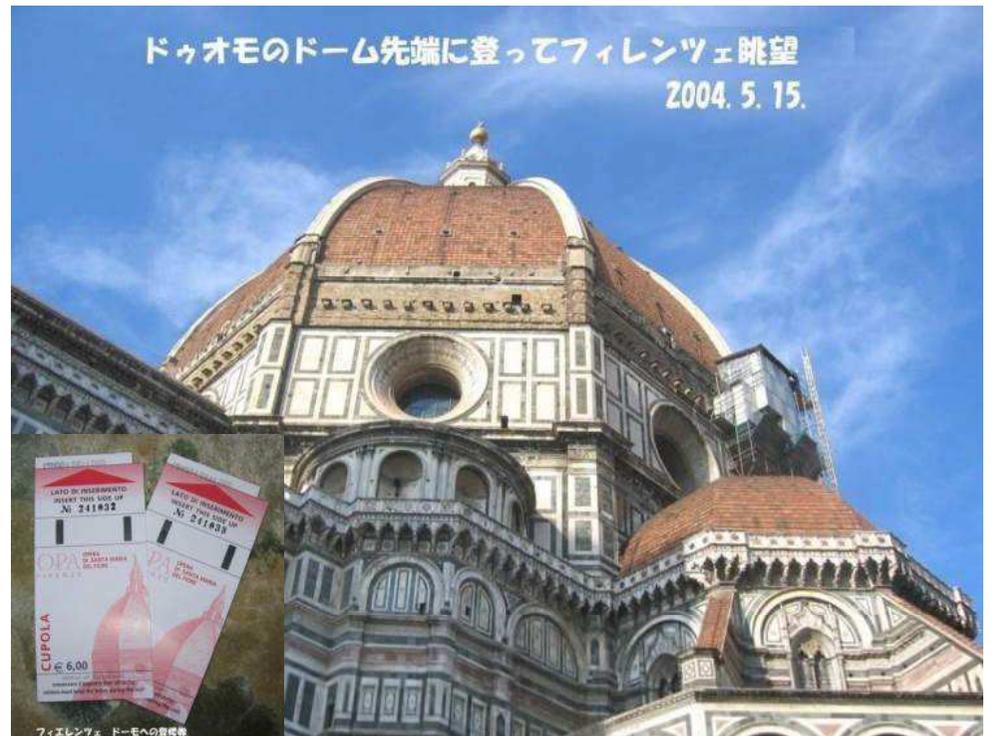
夜のフィレンツェの街歩き 20224.5.14.夜
ドゥオモ界隈 & アルノ川 ベッキオ橋界隈



夜のフィレンツェの街歩き 20224.5.14.夜
ドゥオモ界隈 & アルノ川 ベッキオ橋界隈



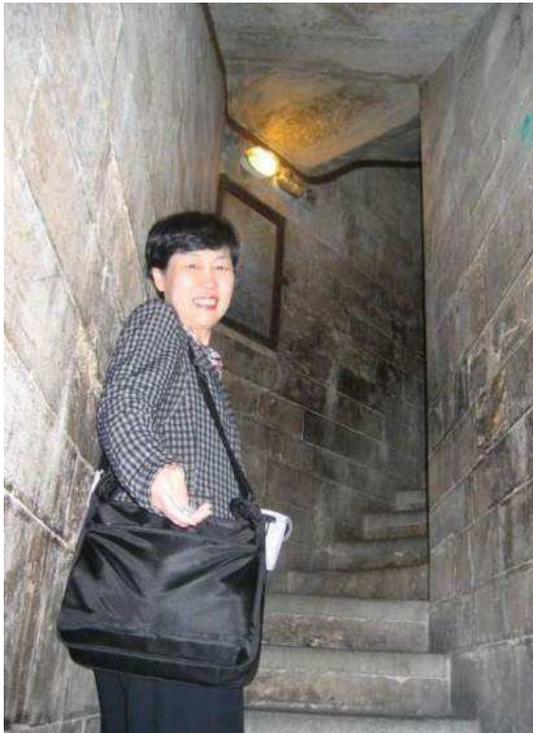
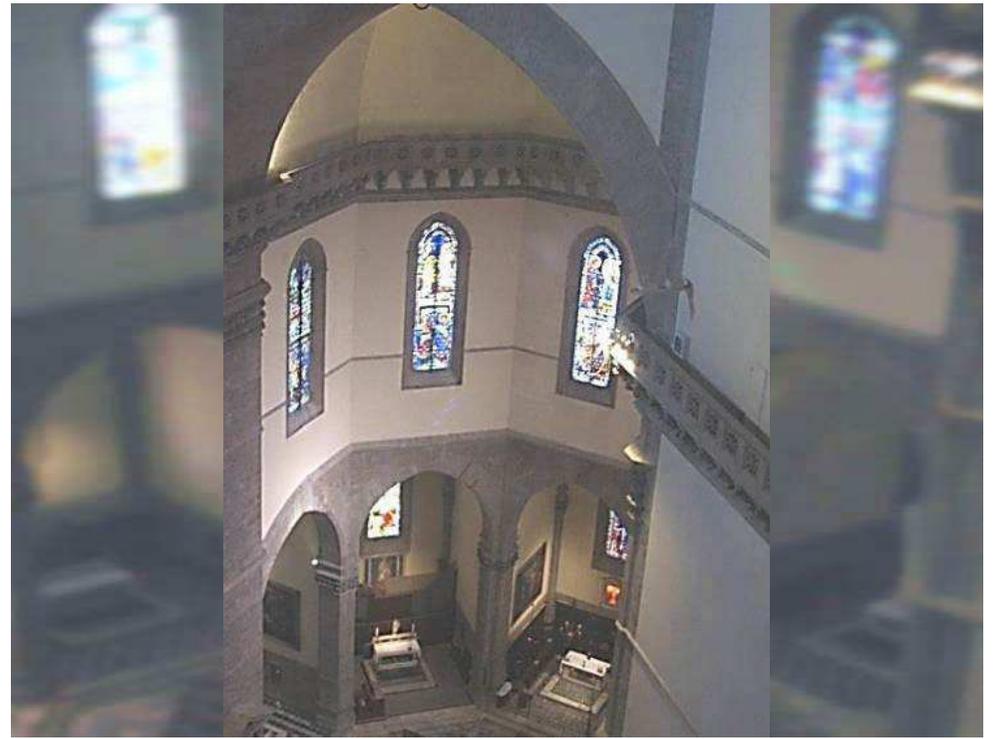
月15日朝 Hotel CAROLUS で

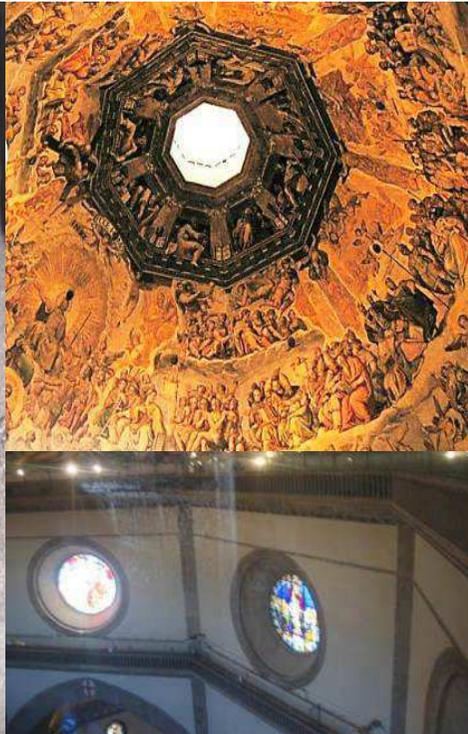


ドゥオモのドーム先端に登ってフィレンツェ眺望
2004. 5. 15.



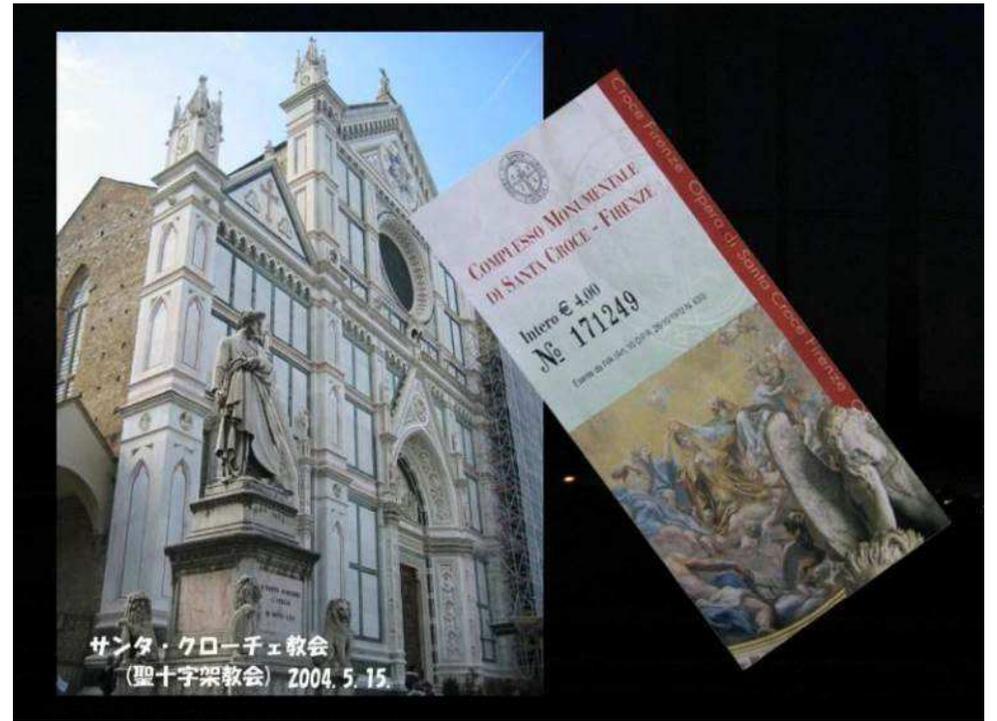
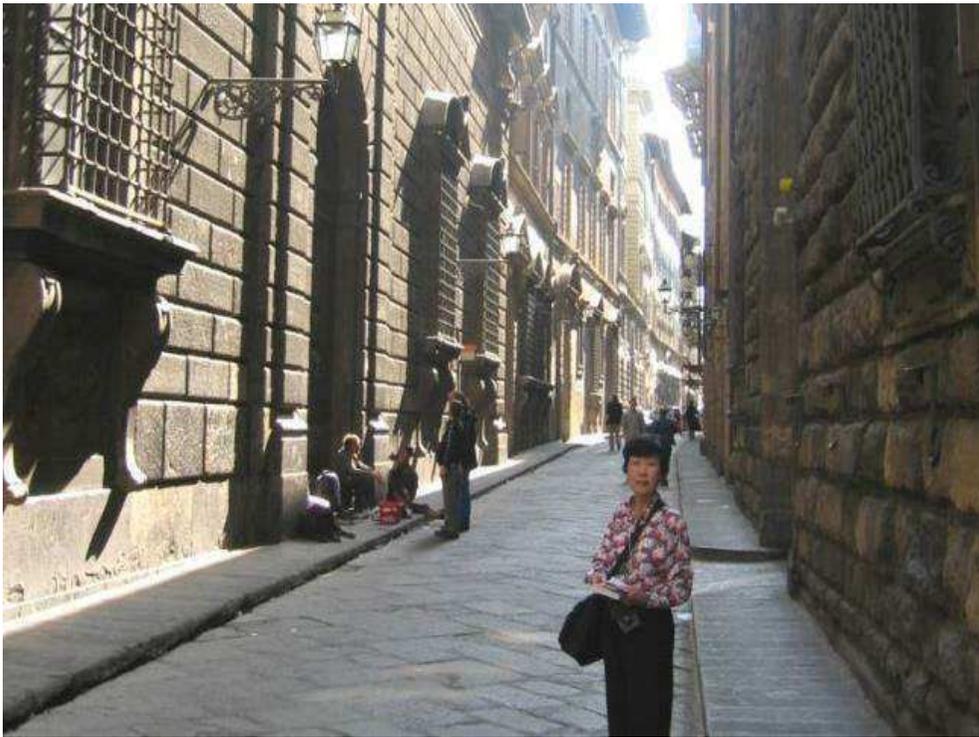
フィレンツェ ドームへの登城券

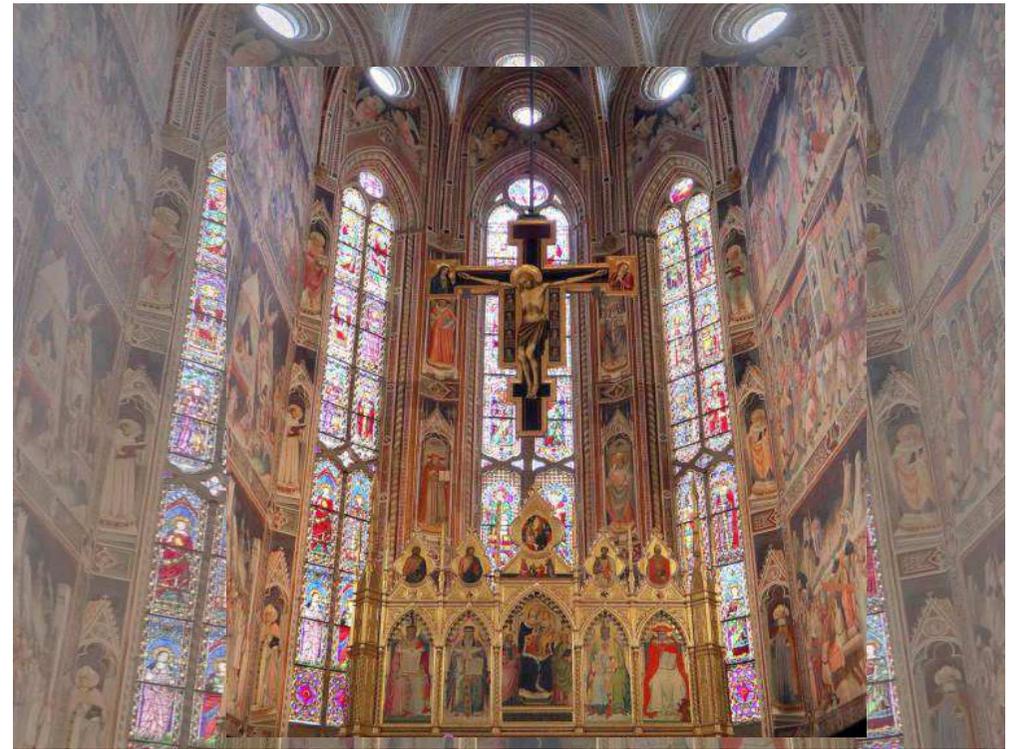


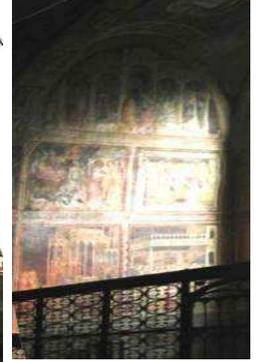












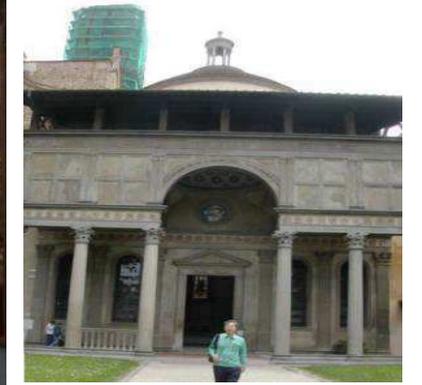


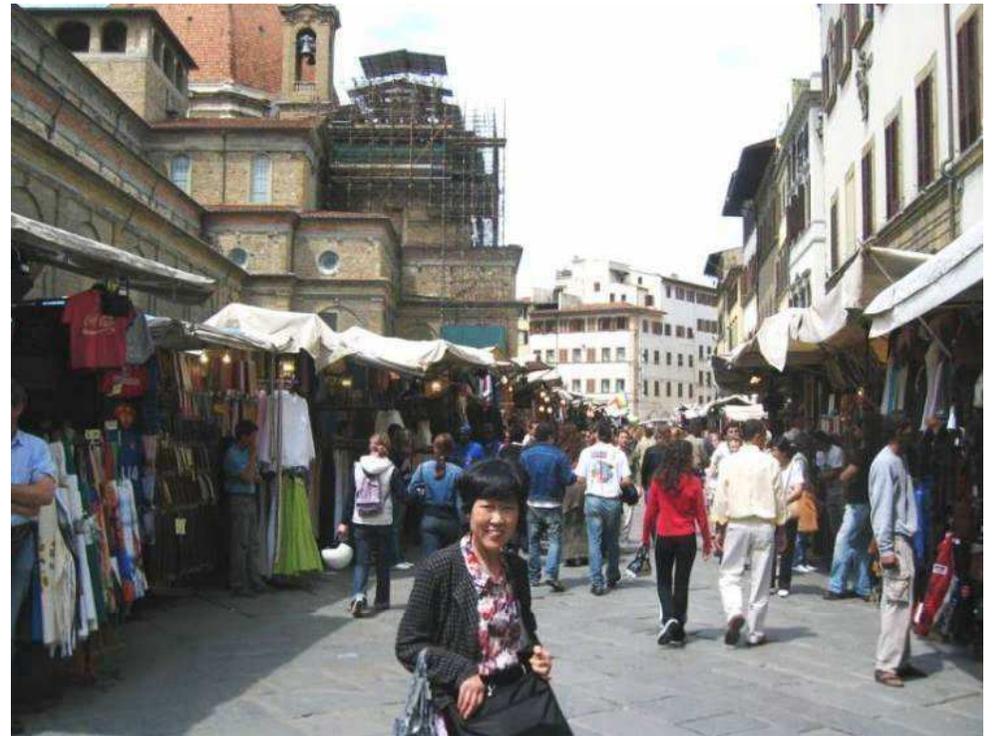






メジナ家礼拝堂と周りの露天群 2004. 4. 15.







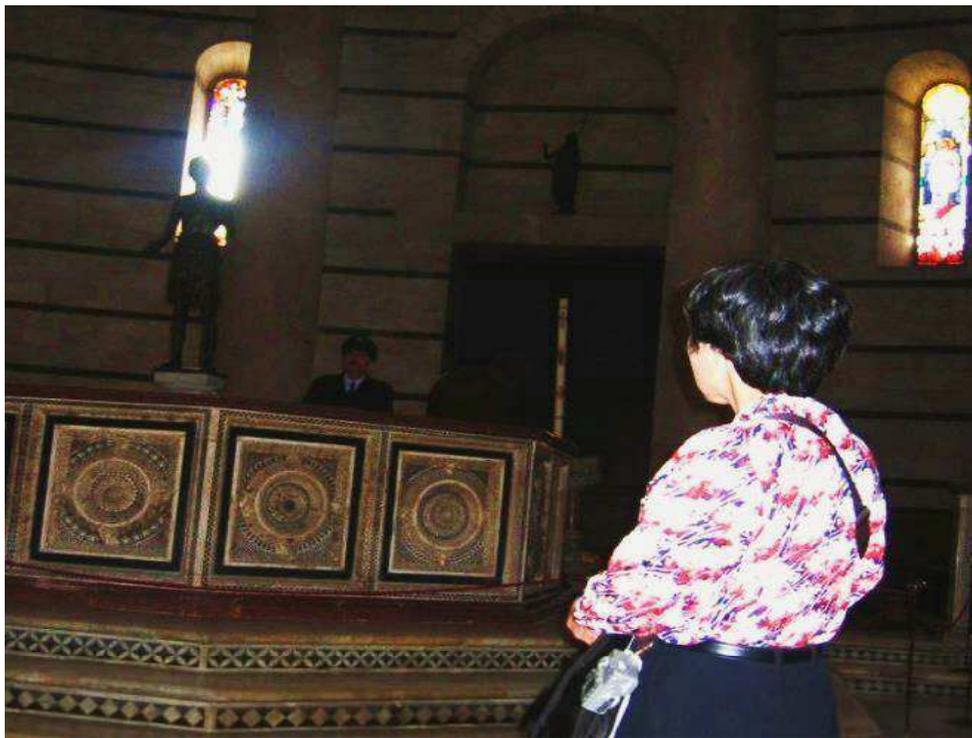








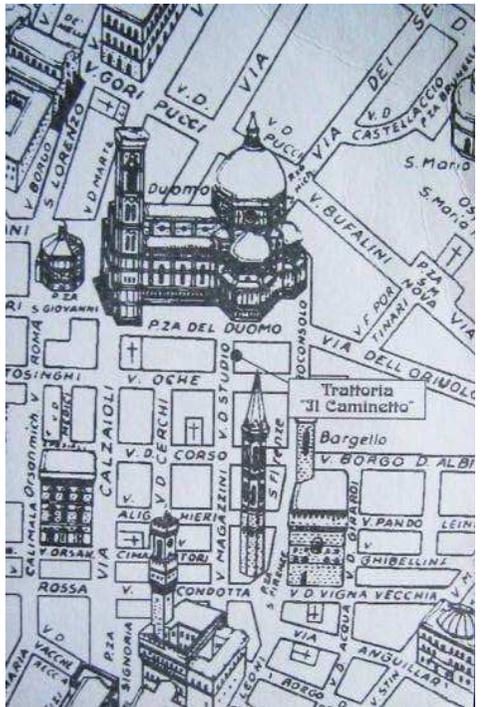




嬉しいピサの半日ツアー フィレンツェに帰っ時にはもう真っ暗に
これでもうフィレンツェともお別れ
街でツアーの人たちと食事をして、もう一度 夜のフィレンツェを散歩してホテルに

バスで「ピサの斜塔」半日ツアー 2004. 4. 15.

2004. 5. 15. 夜夕食 「カミニート」でツアーの人といっしょで



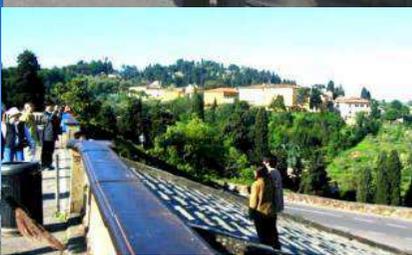
ミケランジェロ広場から フィレンツェの眺望 2004. 5. 16. 朝



フィレンツェを離れる5.16.早朝アルノ川の対岸の丘 ミケランジェロ広場からのフィレンツェの街の眺望



フィレンツェを離れる2004.5.16.早朝
アルノ川の対岸の丘 ミケランジェロ広場から眺めるフィレンツェの街眺望



フィレンツェを離れる5.16.早朝
アルノ川の対岸の丘 ミケランジェロ広場で



フィレンツェを離れる5.16.早朝 アルノ川の対岸の丘 ミケランジェロ広場で



フィレンツェを離れる5.16.早朝 アルノ川の対岸の丘 ミケランジェロ広場で

アッシジ Walk

聖フランシスコを訪れて

旅の記録



フィレンツェからアッシジへ
2004.5.16.

フィレンツェから聖フランチェスコゆかりのアッシジ 2004.5.15.
フィレンツェからバスで約2時間 丘の上に聖フランチェスコゆかりのサン・フラン
チェスコ聖堂やサンタ・キアラ聖堂等が建ち、キリスト教の巡礼地として、数多くの
人々が訪れ、中世の面影を色濃く残すアッシジの旧市街地

聖フランシスコ
「平和の祈り」

主よ、わたしを平和の道具とさせてください
わたしは
憎しみの心で育ちました
また憎しみをかきまわすようにしてください
謙遜の心で育ちました
また謙遜をかきまわすようにしてください
愛の心で育ちました
また愛をかきまわすようにしてください
希望の心で育ちました
また希望をかきまわすようにしてください
苦しみの心で育ちました
また苦しみをかきまわすようにしてください
悲しみの心で育ちました
また悲しみをかきまわすようにしてください

あま、主よ、わたしに
聖フランシスコの心で
祈りなさい
聖フランシスコの心で
祈りなさい
聖フランシスコの心で
祈りなさい

サン・フランチェスコ聖堂



アッシジの歴史

ローマの昔に山腹の階段状の台地に町が築かれたのがこの町の起原らしい。その頃は聳え立つ城壁の頂点がアッシジらしさを際立たせていたと書かれている。その後ローマが倒れ、この地にも蛮族が襲来し、8世紀終わりにはロンバルド族のスポレート公国の一部となる。

8世紀後半にカール大帝がスポレート公国を征服し、この辺一帯を教会に寄進したため教皇領となる。しかし9世紀になるとカロリング朝が侵攻してきて征服され12世紀終わり頃まで神聖ローマ帝国の支配下に入る。

一方アッシジの都市は、12世紀から13世紀にかけて城壁が新しく築かれ、市街は拡大した。そして13世紀の初め、帝国が衰えたのを機に自治都市として独立する。

アッシジの聖人フランチェスコが産まれたのもこの頃。

彼は、初め騎士だったがある日不思議な夢に導かれて神に仕えるようになる。1209年に彼の修道士会がローマに認可されると、フランチェスコ修道会がアッシジとその周辺で清貧と人類不変の友愛を説いた。

1226年彼が息を引き取ると、1228年に聖人に列せられ現在のフランチェスコ聖堂が造られ彼の遺体もそこに安置されることとなった。

しかし、アッシジの町は、すぐ近くのペルージャなどと争いを続け、町は次第に荒廃していった。

20世紀に入って、フランチェスコ没後700年の巡礼が行われ、1939年に彼がイタリアの守護聖人になったのをきっかけに、現在のようににぎわいを取り戻した。

アッシジはペルージャのあるウンブリア州のほぼ中央、ペルージャ県の中にある。

標高：424m

人口：24,626人

アッシジの位置





ペルージャの町



アッシジの丘 全景



高速道路を降りて間もなく、
オリーブ畑が広がる田園の丘の上に広がるアッシジの街が見えた 2004.5.14.



アッシジの丘 全景



- ① サン・ステファノ聖堂
- ② ミネルバ神殿 (古代ローマ、手前の広場はコムーネ広場)
- ③ スオーバ聖堂
- ④ アッシジのドゥオモ (中央聖堂) であるサン・ルフィーノ司教座聖堂
- ⑤ アンフィテアトロ (古代ローマ円形劇場跡)
- ⑥ サンタ・マリア・マジョーレ聖堂
- ⑦ アッシジ駅 (約4キロ) や
- ⑧ サンタ・マリア・デリ・アンジェリ聖堂 (内部にボルウィウクラ礼拝堂) へ至る
- ⑨ エレーモ・デッレ・カルチェリー修道院 (約5キロ) を経てスパシオ山へ至る



アッシジの丘の下の
アッシジ市街地で



アッシジの丘からアッシジの街 2004.5.16. サンタ・マリア・デリ・アンゼリ大聖堂が街の中心に見える



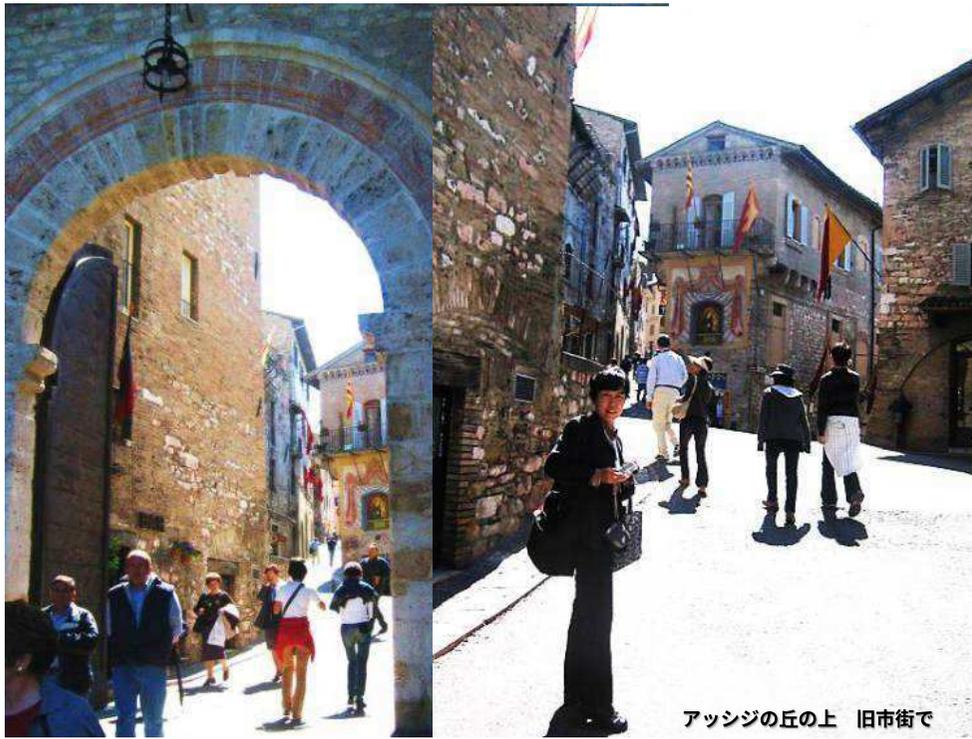
アッシジの市街地 中心にサンタ・マリア・デリ・アンゼリ大聖堂が見える



サン・フランチェスコ聖堂などアッシジの丘の上に登る坂道で



坂道を登り切って、アッシジの丘の上の旧市街地に入る入口



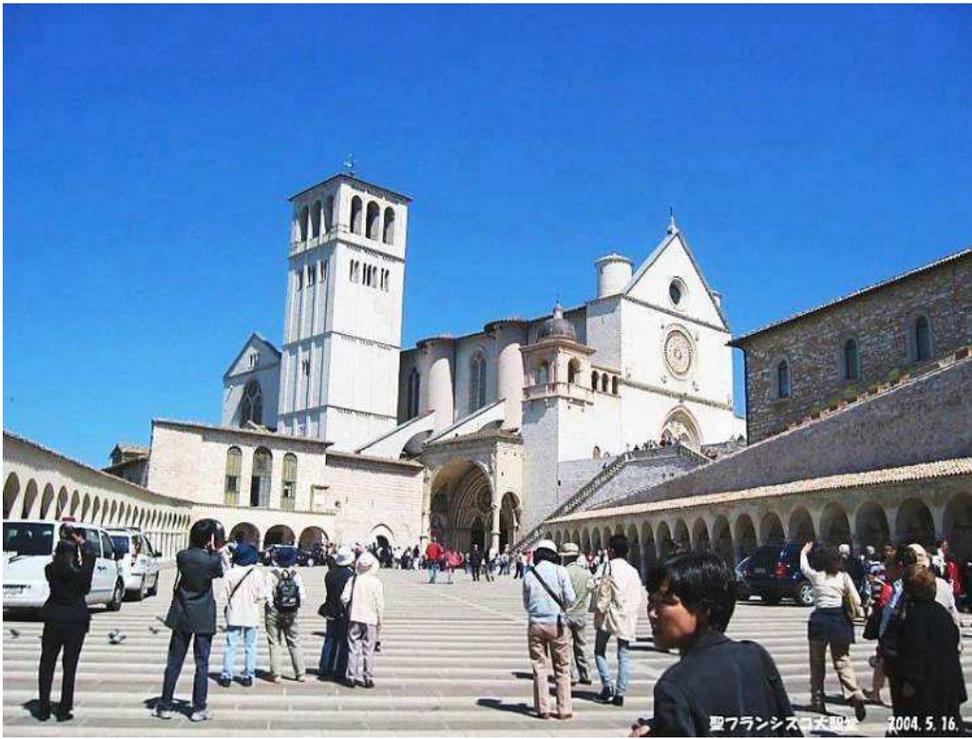
アッシジの丘の上 旧市街で



アッシジの丘の上 旧市街で



アッシジの丘の上 旧市街で



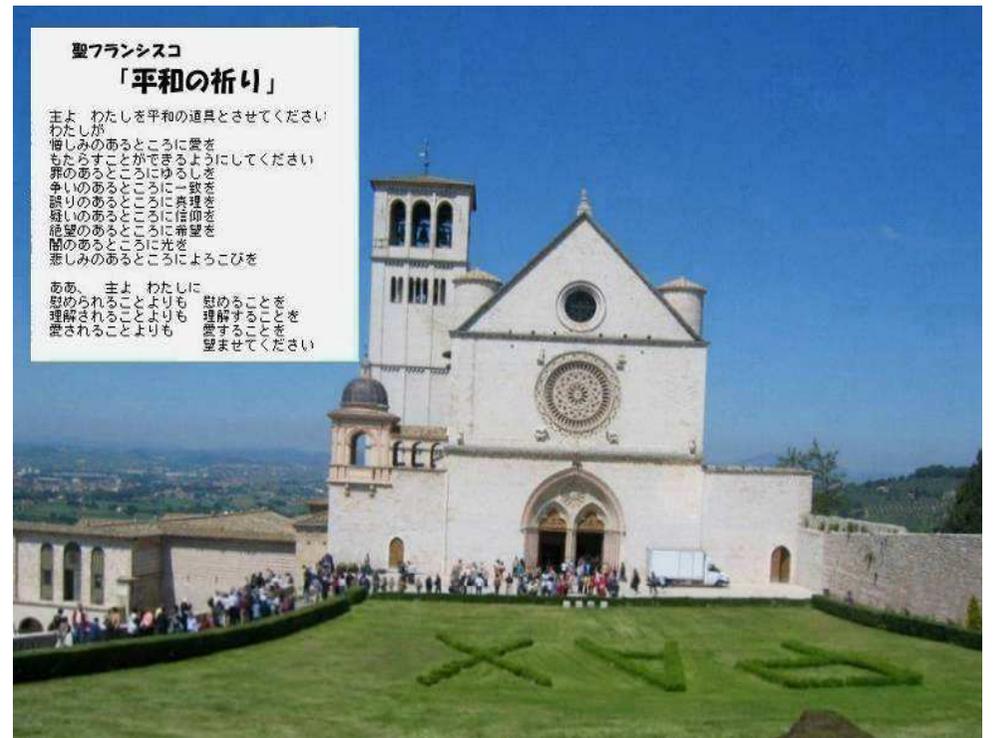


聖フランシスコ大聖堂 上部聖堂前広場 2004. 5. 16.





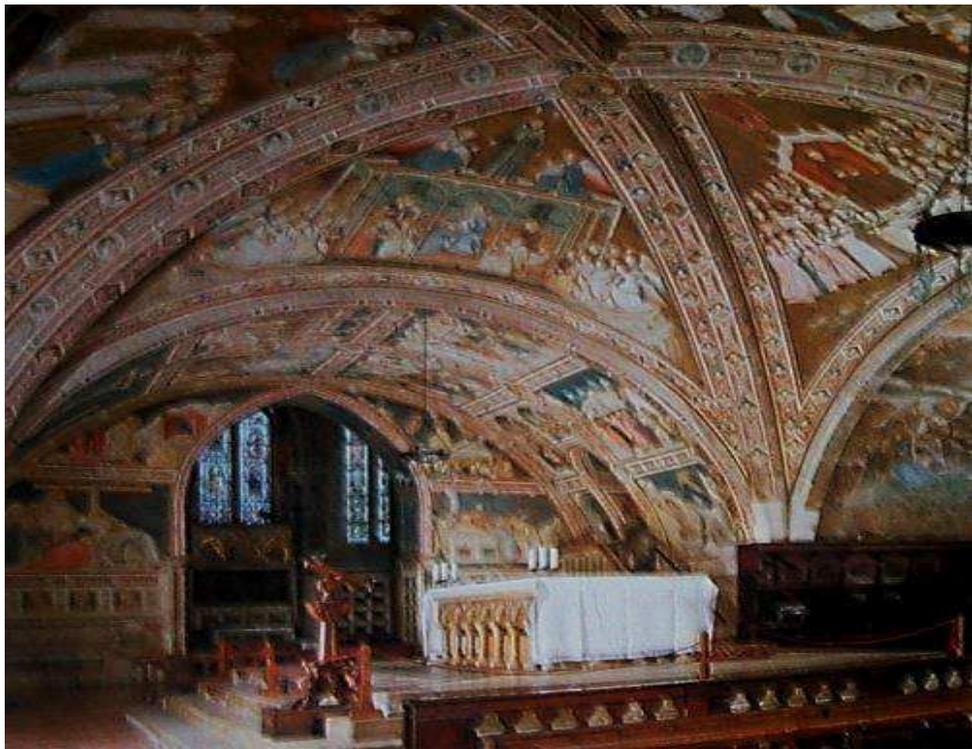
上部大聖堂正面広場から 「PAX・平和」の文字が描かれている



聖フランシスコ
「平和の祈り」

主よ わたしを平和の道具とさせてください
 わたしが
 怖しみのあるところに愛を
 もたらすことができるようにしてください
 罪のあるところにゆるしを
 争いのあるところに一致を
 誤りのあるところに真理を
 疑いのあるところに信仰を
 絶望のあるところに希望を
 闇のあるところに光を
 悲しみのあるところによるこひを

ああ、主よ わたしに
 慰められることよりも 慰めることを
 理解されることよりも 理解することを
 愛されることよりも 愛することを
 望ませてください



聖フランシスコの生涯



フランシスコは1182年(※1)、イタリアはアッシジの富裕な布衣の息子として生まれた。(1181年、日本で、平清盛が64歳で没した。その少し前、1221年には承久の乱が起こり、幕府が鎌倉に上座を遷し、順徳上皇を佐渡に、そして土御門上皇を土佐に移した。)フランシスコは身分相応の高い教育を受けたが、生まれつき陽気な性質で面白い歌や物語を語り場を取ったり、踊ったり、宴会や音楽会に浮かれ回り、金も湯水のように使う生活をしていった。その反面愛情も深く、慈悲に富み、貧者を見れば気が病んでいく。ある日、ひとりの物乞いを何も与えずに外に追い出しました。しかし直ちに後悔した。「もしあの男が私の友だからよこされて来たのだら、あるいはある伯爵とか男爵からの紹介で来たのだら、私は喜んで求めるものを与えたことだろう。しかし、今の自分の態度はどうか、彼は王の王、万物の創造主である神から遣わされて来た人なのだ。私は空手で彼を追い返してしまつた。その上、失礼な言葉まで言ったのだ。そして、すぐさま立ち上がって彼を追いかけ、お詫びを言つて莫大に謝した。

19歳の時にアッシジ軍に加わり、ペルジヤと戦い、破れ、1年間、捕虜生活を送った。その後、南イタリアで起こった戦争に志願した。しかし途中の町で病気に罹り、ひとり残されてしまった。その病床で夢うつうちに「フランシスコ、どこへ行こうとしているのか」という声を聞いた。フランシスコが「騎士となってアプリアへ行こうとしています」と答えると、みずほび「フランシスコ、あなたに最も多くの喜びを与えることのできるものは、主人か、召使いか」と尋ねられた。フランシスコは声の主がキリストであることを認めて、「主よ、私に何をさせようと思召しなすか」と尋ねた。すると主は、「フランシスコ、家に帰らない。そこであなたのことばは知られますよ。彼は、来た道を、目を見張るような騎士姿の彼が驛馬にまたがり、引き退いた。人々の軽蔑の目を気にせず、教会や町にはあるほら穴で祈り、新しい指示を服した。

フランシスコが、半ば忘れかけた聖ダミアナ聖堂で祈っているとき、十字架から声が聞こえてきた。「フランシスコ、早く行って私の家を修復しなさい」と。彼は早速修理にとりかかった。父は息子の変わり方に驚き、もとの華々しい生活にも戻るようにしつこく勧めたが、何の甲斐もなかった。父は息子を司祭館に連れて行き、公に謝罪した。

1209年2月、アッシジの近郊にあるポルチュンクラの聖堂で、福音の一部(マタイ10:10)「金銀や銅貨を帯に入れてはならない。旅袋も二枚の上着も、くつも、杖も持たしてはならない。働く人は食糧を貰う権利がある」を聞いて感動し、さっそく身に褐色の粗布をまとい、塵に草履を履め、はだいで脱靴して回った。

その後はポルチュンクラ聖堂を拠点として、福音のみことばを伝え回った。そして、太陽、月、星、風、空気、雲、空、天候、水、火、大地、人、死、すなわち絶えての造物が兄弟であり、姉妹であったが、特に人間は愛すべき兄弟であった。たとえ盗人であっても、また道着者であっても、フランシスコは愛すべき兄弟として扱った。それで、フランシスコには目に見えぬ力はなかった。ただ、人間の心にひそむ悪が彼の魂の軌であった。主なるキリストを十字架にかけたの、心にひそむ悪であり、また平和をかき乱すのもこの罪に他ならない。フランシスコは人びとの心を集く杖を討ち取るために、最後の息を引き取るまで戦った。

神との深い交わりからわき出るフランシスコの愛は強く人びとの心をとらえた。その慈悲深い愛は心無しの小鳥、魚、羊、狼さえおとなしく聞き従ったという。1224年、40日の断食と断食をするためにアルペルナ山に登り、キリストに最後の願いをした。「おお、イエスよ、死ぬ前に私に二つのおまみをあそび下され。すなわち、私の霊魂と肉身にあなたのご愛顧の苦しみをできるだけ強く感じさせて下さい。それから人類のあがないのために、あのようなひどいご愛顧を蒙りなかつたあなたにすくなく愛をできるだけ深く私の心に感じさせて下さい」と。それ以来、フランシスコは腹と胃をわすれた。その激しい苦しみの中でも、キリストとの親密な一致によって神の平和と喜びを体験し、そのしるしとして聖痕を受けた。

フランシスコはフランシスコ会、クララ会、第三会の3つの修道会を創立した。

1226年、10月3日夜、ポルチュンクラ聖堂の所で、詩篇141「私は声を上げて主に叫ぶ」を唱えながら死を迎えた。44歳。

その死後、多くの奇蹟がフランシスコの取り次ぎによって起こり、その聖徳が十分に実証されたので、1228年6月16日(※2)で、教皇グレゴリウス9世(※3)によって列聖された。

聖フランシスコの祝日は10月4日。

聖サンフランシスコの生涯



聖サンフランシスコ大聖堂 解説図

聖サンフランシスコ大聖堂 入場料無料より

2004.5.16

10 アレクサンドリアの町から聖痕を運出する

11 イスラム教国王の前での講義

15 小島に説教する



聖キアラ教会 2004.5.16.

聖キアラ



1194年、アッシジの貴族、スキウパ伯爵家に生まれた。善良で信心深い母オルトラーナは長年、子のないのを悲しみ、聖地に送られてこの恵みを得たところ、懐胎した。出産も近づいたころ、聖堂の十字架の前で祈っていると「女よ、心配するな。あなたは世界を照らす光の子を安らかに産んでくれる」という声を聞いた。間もなく女の子が産まれたので、両親はクララ(光り輝くもの)と命名した。

クララは敬虔な母の下で信心深く育てられた。家政、紡織、花の栽培も良くし、宗教のほか音楽、文学、政治、社会問題にも関心を寄せ、学識ある人の話を喜んで聞いた。

19歳の時、彼女が聖フランシスコと出会い、地上の望の甘みはなく、その美のたのみがたいと、また純潔を守り通してキリストの清純になることの如何に尊いかを聞き、言い知れぬ甘美な希望に燃え立った。彼女は善行一途のフランシスコの指導を受けて、1211年、妹の日に、ポルチュンクラ聖堂で修道女になった。まもなく妹のアグネスも修道女になった。彼女らの父は、娘の出家が祖先一門の名譽を汚すと非常に怒った。クララのもとに身を寄せたアグネスを連れ戻そうとして12名の武装隊を引き連れて修道院に侵入したが、クララが神のご加護を祈るとアグネスの身は石のように重くなったので、彼らは神の意志を悟り、アグネスの修道院入りを辞した。

1215年、クララは院長になった。みずから食事を整え、給仕し、洗濯をした。若い修道女にたいしては優しい母の顔であった。祭服や典礼用の亜麻布を織り、美しい刺繍をつけてはこれをウンブリア地方の貧しい教会に送った。

クララは1263年8月11日、69歳で亡くなった。彼女は病弱で、42年間のうち27年間は病室に閉じながらサン・ダミア修道院で師父フランシスコの精神を良く守り、美しい刺繍をつけてはこれをウンブリア地方の貧しい教会に送った。

1265年、教皇アレクサンデル四世によって列聖された。

聖クララの祝日は8月11日である。

聖クララ会は、聖フランシスコに与えられた神の勅めと、教会によって認可された戒律に従って、厳格な禁制と完全な無所有を特徴としている。まったく瞑想と祈りの生活を通して聖三位を賛美し、全世界に神の証となり、神を人びとにもたらし、教会、特に司祭を助ける。

日本には、八王子市、西宮市、横浜市、上越市に修道院がある。各修道院は院長の指導のもとに独立した共同生活を営んでいる。

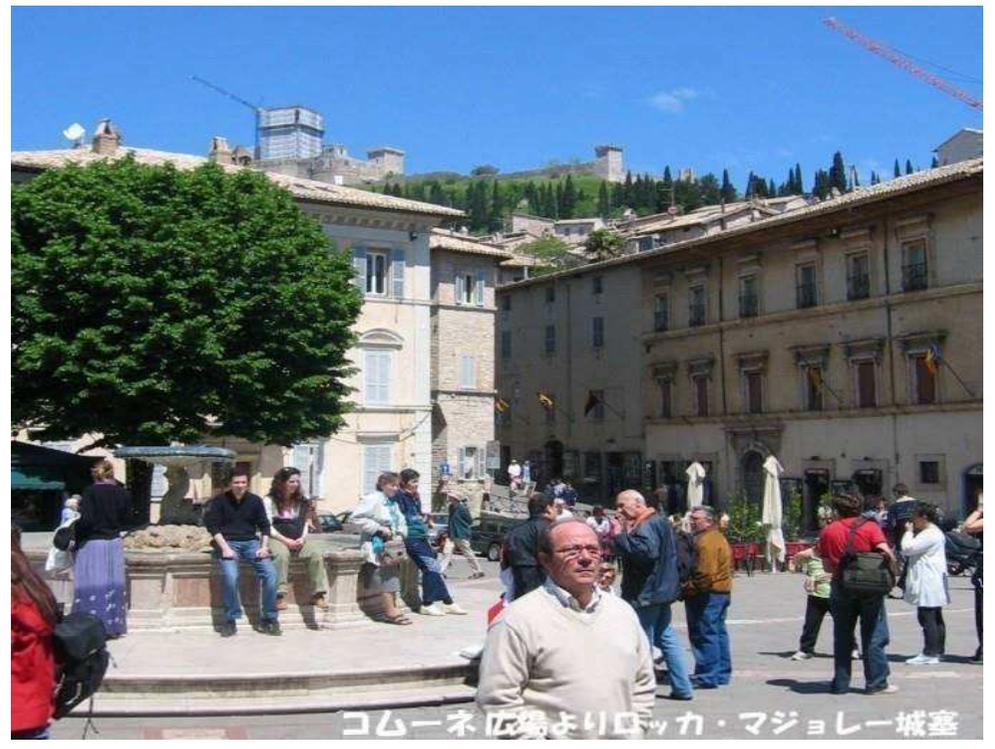


聖フランシスコ
「平和の祈り」

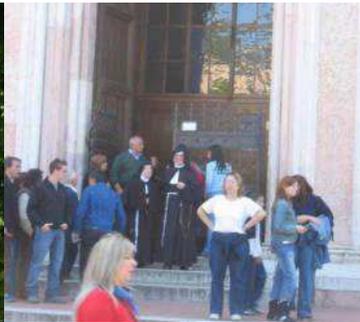
主よ わたしを平和の道具とさせてください
わたしが 憎しみのあるところに愛を
もたらすことができるとして 罪のあるところにゆるしを
争いのあるところに一致を 誤りのあるところに真理を
疑いのあるところに信仰を 絶望のあるところに希望を
闇のあるところに光を 悲しみのあるところによこびを

ああ、主よ わたしに 慰められることを 慰めることを
理解されることを 理解することを
愛されることを 愛することを
望ませてください

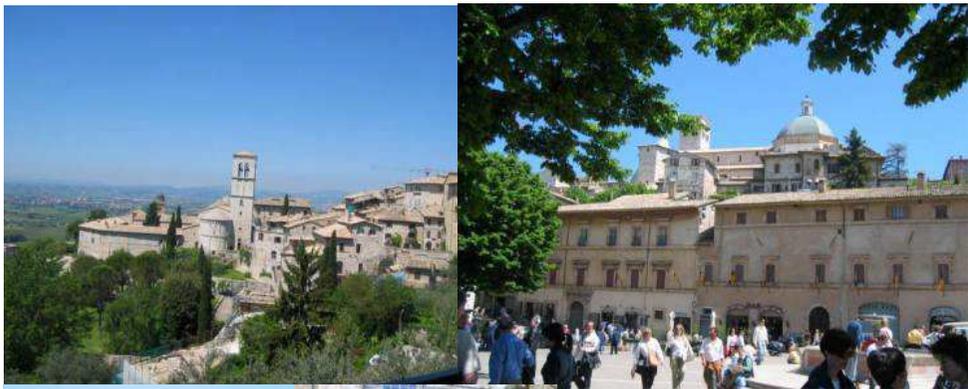
アッシジ
2004.5.16.



コムーネ広場よりロッカ・マジョレー城塞



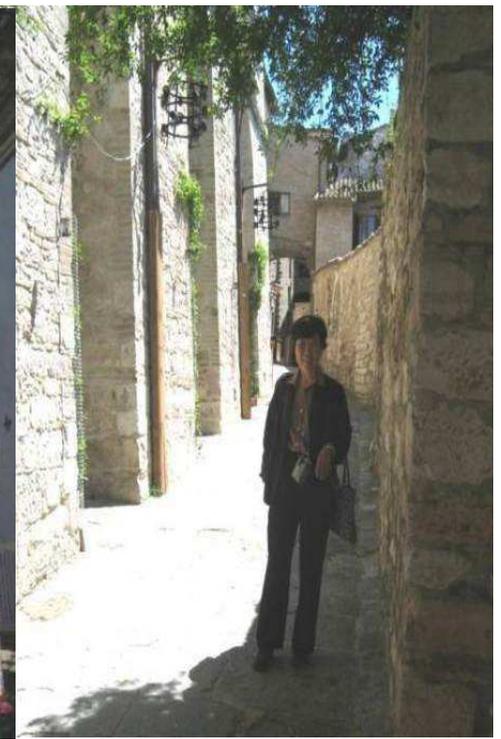
聖キアラ教会



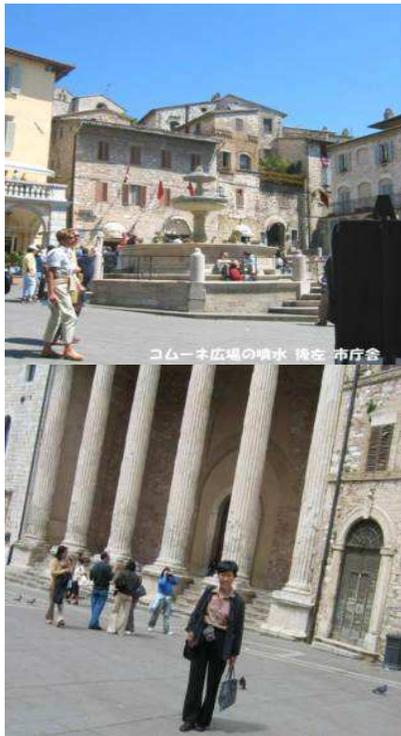
聖フランシスコの父母の像がある広場 2004. 5. 16



聖フランシスコの育った家と父母の像
2004. 5. 16.

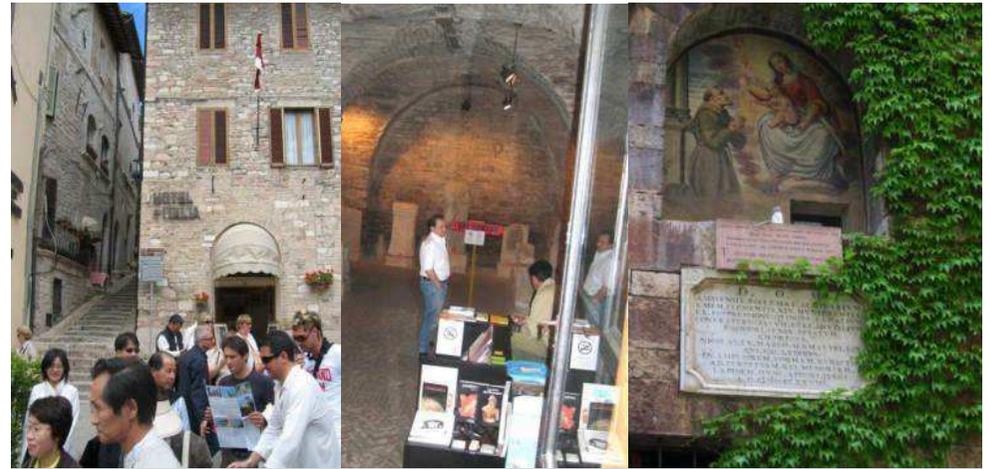


ミネルヴァ神殿 今はミネルヴァ教会



コムーネ広場の噴水 後を 市庁舎

コムーネ広場 鐘楼の前 ミネルヴァ神殿



アッシジの見学を終わって ローマへ向かう

ローマ Walk ローマWalk パチカンと街角 6/18(日) 6/19(月)



夕方 ローマ市街へ入る 2004. 5. 16.



ローマ Roma 2004.5.16-18.



訪れる者全てを魅了する、永遠の都ローマ。イタリアの首都であり、かつては古代ローマ帝国の首都。またイタリア中部ラツィオ州の州都でもある。

古代・中世・ルネサンス・バロックそして現代が混然一体となって共存

する街、ローマ。

さらにカトリックの総本山バチカン市国を擁する都市として、世界の歴史に多大な影響を与えてきた。古代ローマ時代から遙かなる時を超えて存在し続ける数々の遺跡や建造物。

「ローマは一日にして成らず」の言葉の意味を実感する。

市内は7つの丘を巡る古代ローマの城壁によって、旧市街と新市街に分かれ、城壁の内側、直径約5kmの旧市街では、テベレ川が街を蛇行して流れ、川の東側には主要な名所・旧跡が集中し、西側には独立国のバチカン市国や下町情緒溢れるエリアが広がっている。

私にとっては、約30年前、初めて海外出張し、約1週間国際会議に出席の傍ら、街を歩いた思い出がある。

あの街・あの丘・あの店はまだそのまま残っているだろうか・・・

そんな思いでローマの街に入りました。

家内と二人訪ねた30年前のローマの下町 トラスベレ。30年前そこで仲間と夕食を共にしたレストラン、そっくりそのまま今も店が続いていました。

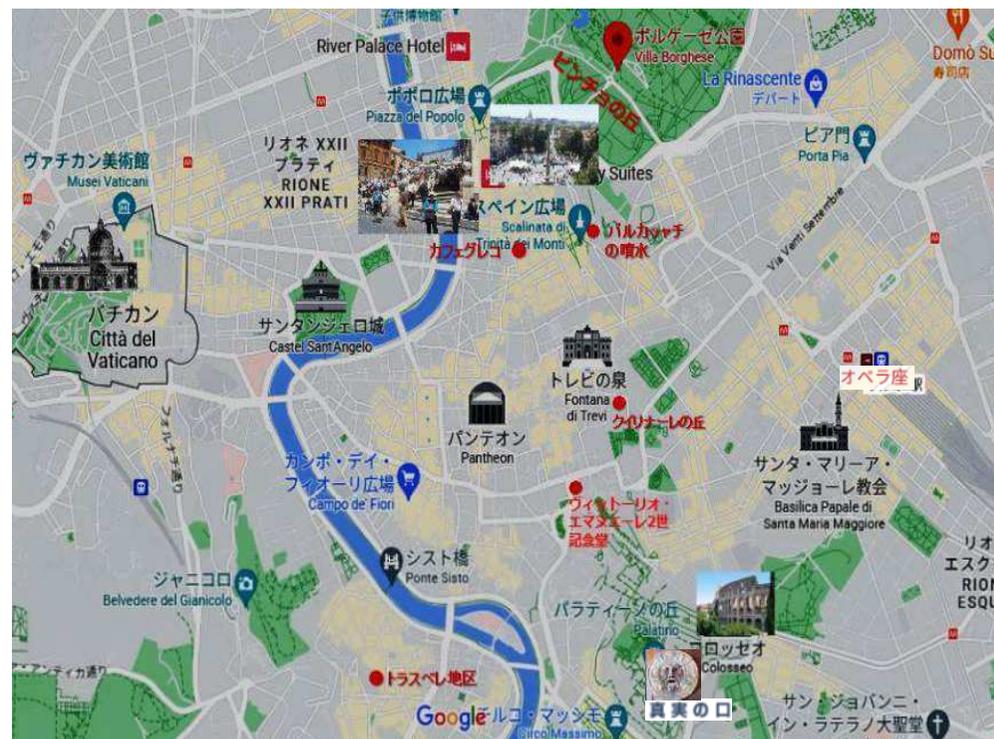


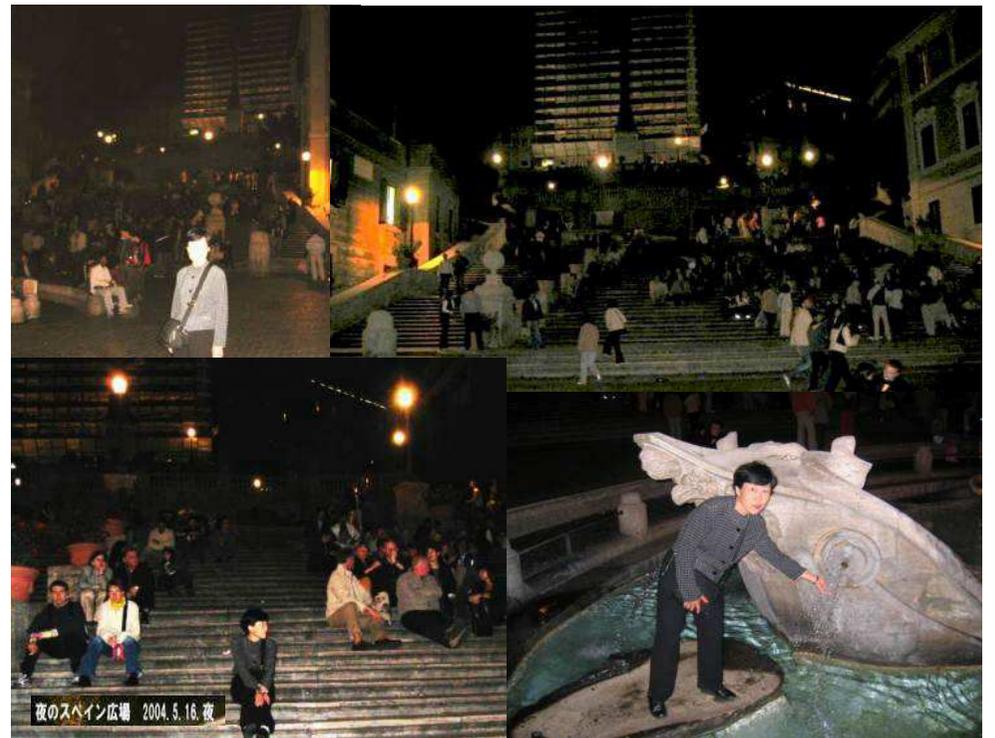
『「ローマは一日にしてならず」
 そして、そのローマは街全体が昔の歴史をそっくりそのまま残している。親が訪ね感激した旧跡・街のたたずまいがそのまま30年経って、子供が訪ねても変わらない。また、その孫が・・・。
 街を訪れたその同じ場所での感動が世を越えて伝わってゆく。
 ローマははじめイタリアの街はそんな街。それがイタリアの街の美しさ』

とツアーリーダーの女性が教えてくれました。

ローマ Walk ローマWalk バチカンと街角

- 2004.5.16. 夕 バスで丘の上の街アッジジ見学をして 夕方ローマへ入る
- 2004.5.17. 早朝 ホテルを出て テレベ川 裁判所・サンタンジェ城界隈散策
- 終日 ・バチカン市国サンピエトロ寺院見学と周辺walk
- ・ローマの街観光・古代遺跡などの見学
- ・ピンチョの丘からローマの街展望
- 夜 ・ほぼ30年前に訪れたローマの下町 ストラスベレ地区を訪ねる
- 2004.5.18. 終日 カプリ島ツアー 海の青・街の白・山の緑
- ナポリ湾に浮かぶ美しい島 カプリ
- 夜遅くローマに帰り、明日は帰国なので、もう真っ暗でしたが、十分見られなかった所を回ると
- バスの着いたテルミネ駅からローマの街へ



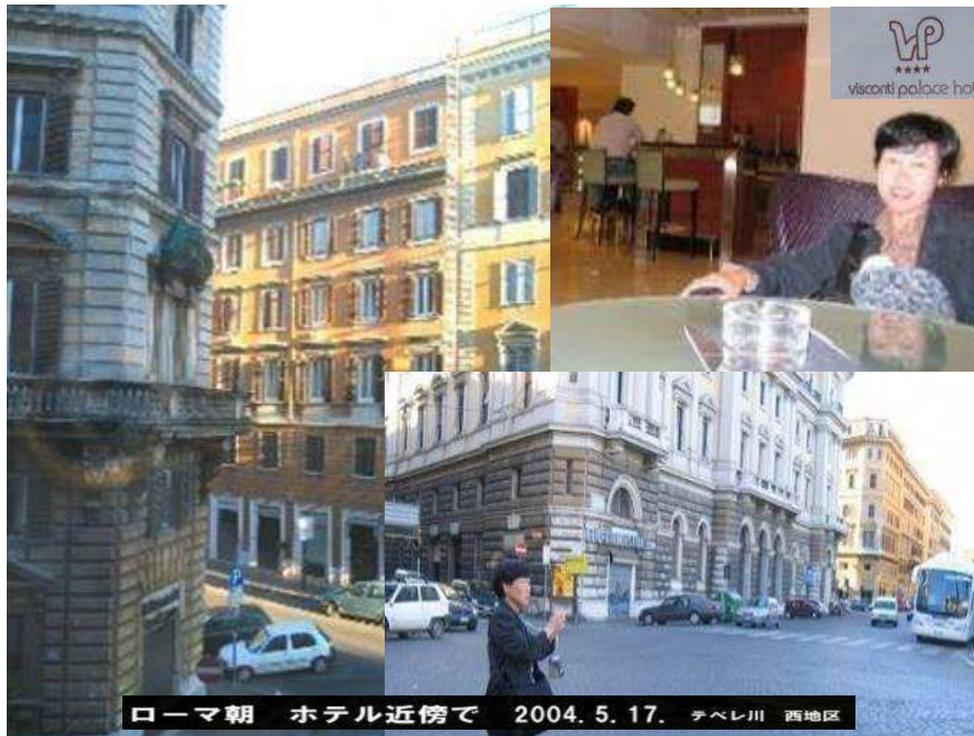




夜のスペイン広場



visconti palace hotel



visconti palace hotel

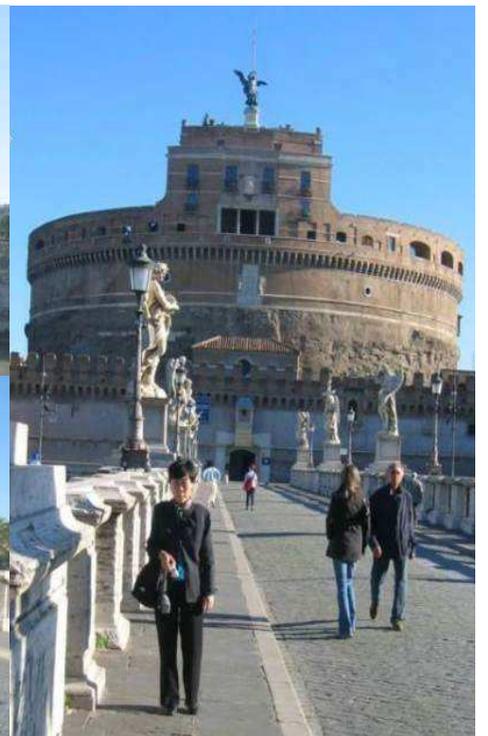
ローマ朝 ホテル近傍で 2004. 5. 17. テベレ川 西地区

ホテルを出て テルベ川 裁判所・サンタンジェ城界隈散策 2004.5.17. 早朝



裁判所界隈
2004. 5. 17. 朝

テベレ川 新地区 裁判所 2004. 5. 17





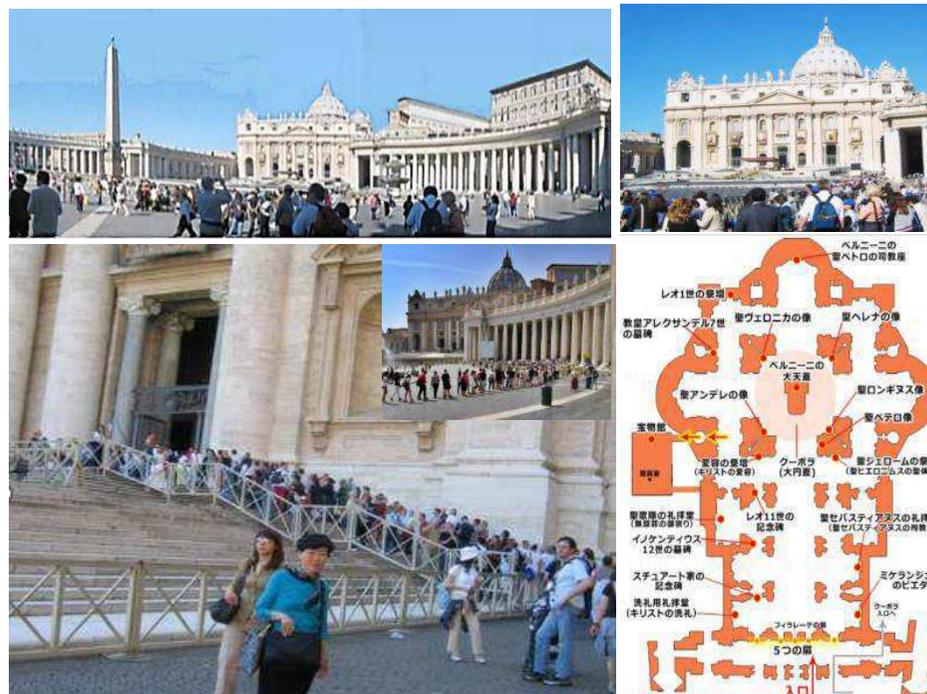
バチカン市国 サンピエトロ寺院見学と周辺walk 2004.5.17.







サンピエトロ寺院の内部見学 2004.5.17.





サンピエトロ寺院の中へ



サンピエトロ寺院の聖堂にはいってすぐ、
ミケランジェロの「ピエタ」像にであえました



ミケランジェロ作
ピエタ像



「聖セバスティアヌスの殉教」が飾られている
聖セバスティアヌスの礼拝堂

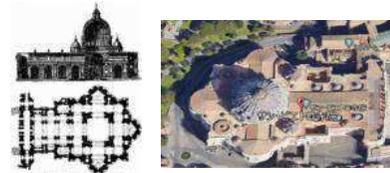


聖ヒエロニムスの聖体拝領
(ドメニコ・ザンピエーリ作)



マティルデ・デイ・カノッサ伯爵夫人の墓碑
カノッサの屈辱で有名なカノッサ城の城主。皇帝側と教皇側の教皇側についたため、サン・ピエトロ寺院に埋葬されました。

サンピエトロ寺院の名前について



サン・ピエトロは「聖ペテロ」の意で、キリスト教の使徒聖ペテロのイタリア語であるサン・ピエトロに由来する。セントピーター寺院、聖ペテロ大聖堂などと表記されることもある。もともと使徒ペテロの墓所を祀る聖堂とされ、キリスト教の教会建築としては世界最大級の大きさを誇る。図の左側に続く広場は省略されている。左側が正面(隣の写真参照)であり、真東を向いている。

平面図にある建物は南北約150m、東西約210m
サン・ピエトロ大聖堂は世界最大級の教会堂建築である。
創建は4世紀現在の聖堂は2代目にあたり、1626年に完成したものである。

高さ約120m、最大幅約156m、長さ211.5m
総面積は49,737m²
教会堂の前部には長径200m短径165mの広場(サン・ピエトロ広場)が存在する。



インノケンティウス12世の墓碑
17世紀の教皇インノケンティウス12世の墓碑です。清廉潔白な人物で、カトリック教会の悪習を改めました。フィリッポ・デッラ・ヴァッレ作の彫像の左右には、自愛をあらわす女神像と、正義を表す天使像が彫られています。



聖ペテロ像の右足をなでて健康を祈る



クーポラの真下 中央祭壇周辺
奥の後塵には「ベルニーニ」が1666年に手掛けた「聖ペトロの司教座が見えている



中央祭壇奥の後塵にある「ベルニーニ」が1666年に手掛けた「聖ペトロの司教座



奥の「黄金の司教座」が大天蓋の柱を額縁にするかの様に一層美しく見える。



教皇インノケンティウス11世の墓碑
(教皇の像の両側には信仰と不屈の精神が表れています。
浅浮き彫りは1683年のウィーンでのトルコ人に対する勝利を示しています。

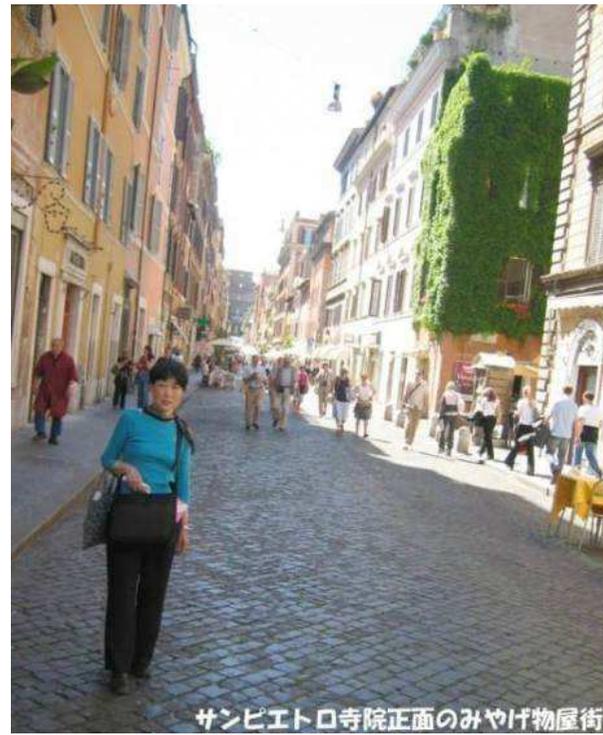
教皇の遺体は、大聖堂の反対側にある聖セバスティアヌスの祭壇の下に見える。
また、反対側には教皇インノケンティウス12世の墓碑がある。



教皇アレクサンデル7世の墓碑



祭壇画「Altar of the Sacred Heart」
by Carlo Muccioli, 1920



サンピエトロ寺院正面のみやげ物屋街



**祭壇画「Altar of the Sacred Heart」
聖心の祭壇**

セントペロニカ機橋の南側

モザイクの祭壇画

聖マーガレット・メアリー・アラコックへのイ
エスの聖心の幻視を描いています。

モザイクの絵は 1919 年から 1920 年にかけて
カルロ ムッチョーリによって制作され、1920
年の聖人列聖式で展示するよう依頼されました。
モザイクは 1920 年から 1925 年にかけて制作
されました。

この祭壇画はフランチェスコ ヴァンニが描いた
「シモン マグスの墮落」に取って代わりました。
1603年。

内容よくわかりませんでした。インターネット
を探して、上記の説明書きの一部を見つけま
したので、サンマルコ寺院の祭壇画の整理の一
部として記述

**ローマの街観光・古代遺跡などの見学
バチカンの見学をおえて、ローマの街へ**

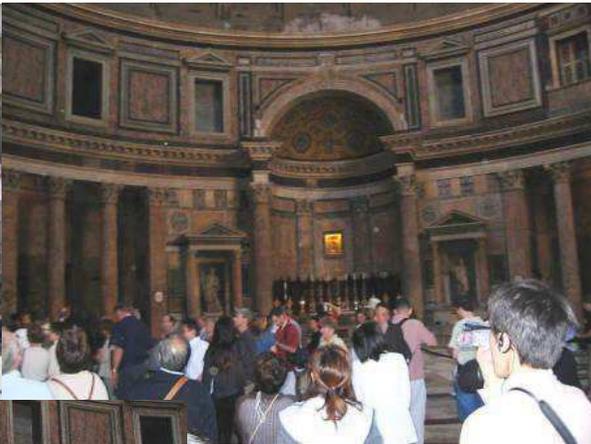
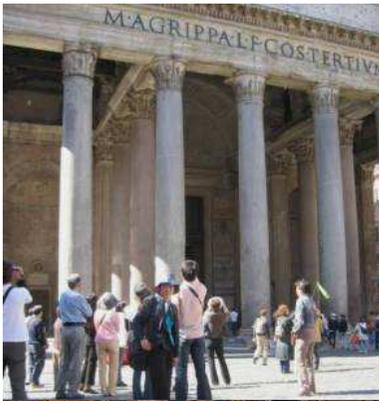


裁判所前のバスターミナル 2004. 5. 17.



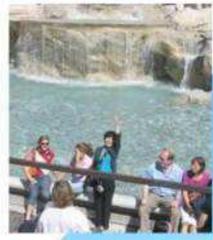


パンテオンに安置された、ラファエロとマリア・ピッピエーナの墓。聖母子の彫刻はロレンツォ・ロツティ (en:Lorenzetto) の作品





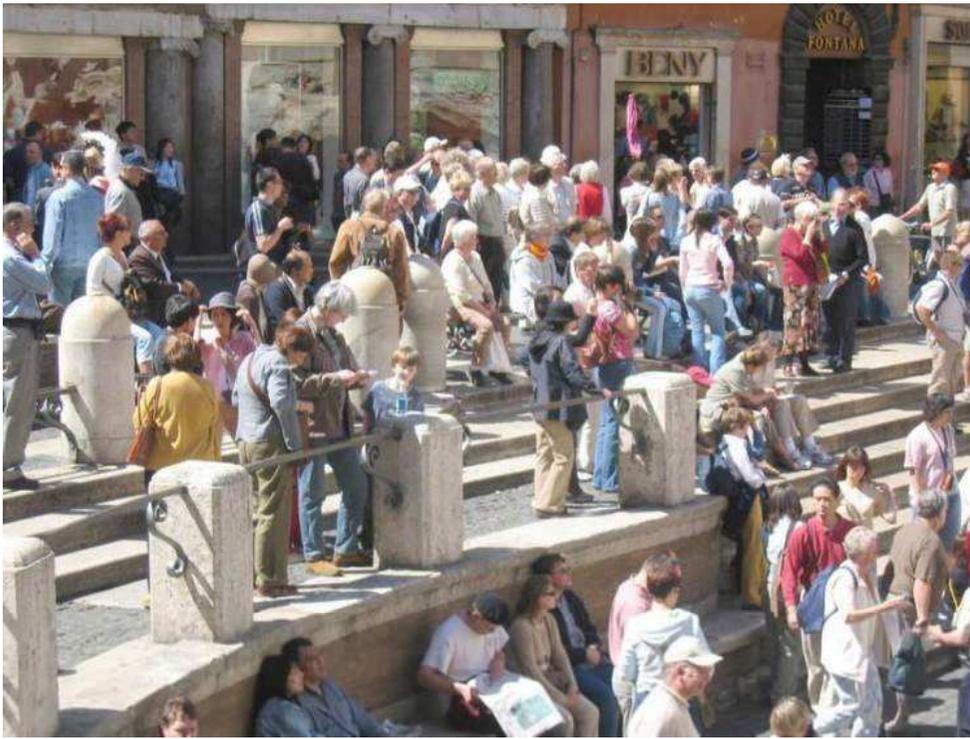
マルクス・アウレリウス帝の戦勝記念碑



トレビの泉

2004. 5. 17.













嘘つきが手を入れると噛み切られるとの
言い伝えがある「真実の口」



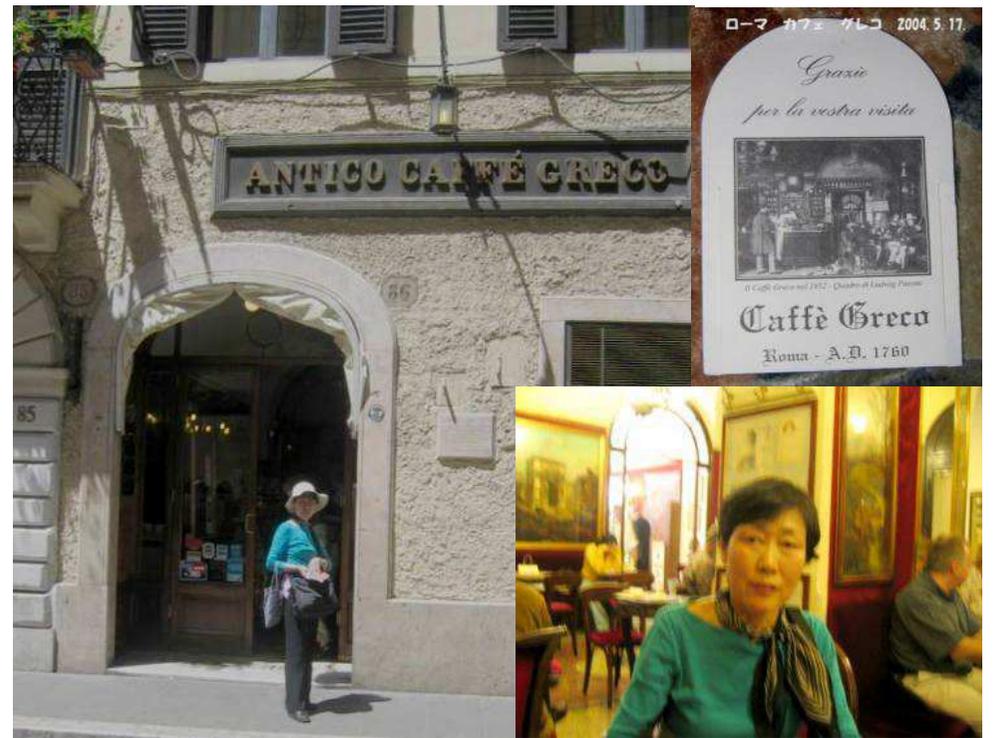
共和国広場 ヴィットリオ エマヌエーレ2世記念堂 2004.5.17.
短くヴィットーリオ (Vittorio) と呼ばれる場合もある。
建物は首都ローマの中心地に位置し、
他に無名戦士の墓としての役割も兼ねており、祭壇が設置されている。



オペラ座の前で



スペイン広場



快晴の暑い一日
ツアーで一緒の人に教
えてもらった
カフェ「グレコ」へ



スペイン広場







ピンチョの丘より眼下にホポロ広場を見下ろす2024.5.17.
遠くバチカンのクーポラ遠望



ピンチョの丘よりローマの街の眺望 2004.5.17.



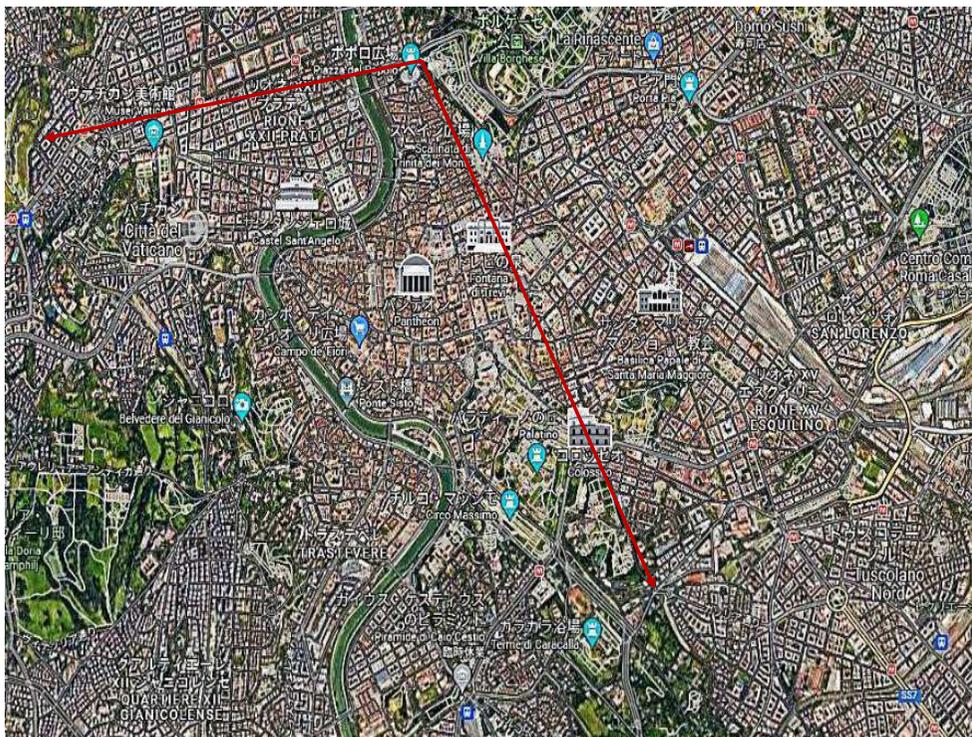
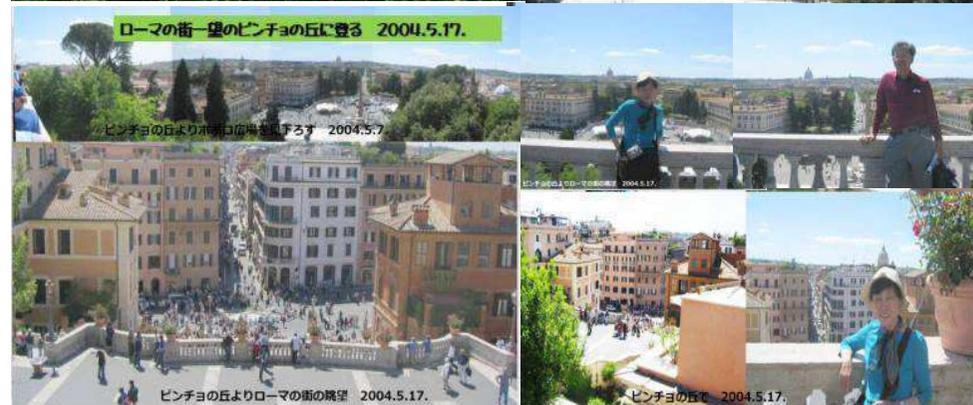
ピンチョの丘よりローマの街の眺望 2004.5.17.
左にヴィットーリオ・エマヌエーレ2世記念堂
右にバチカンのクーポラが見える

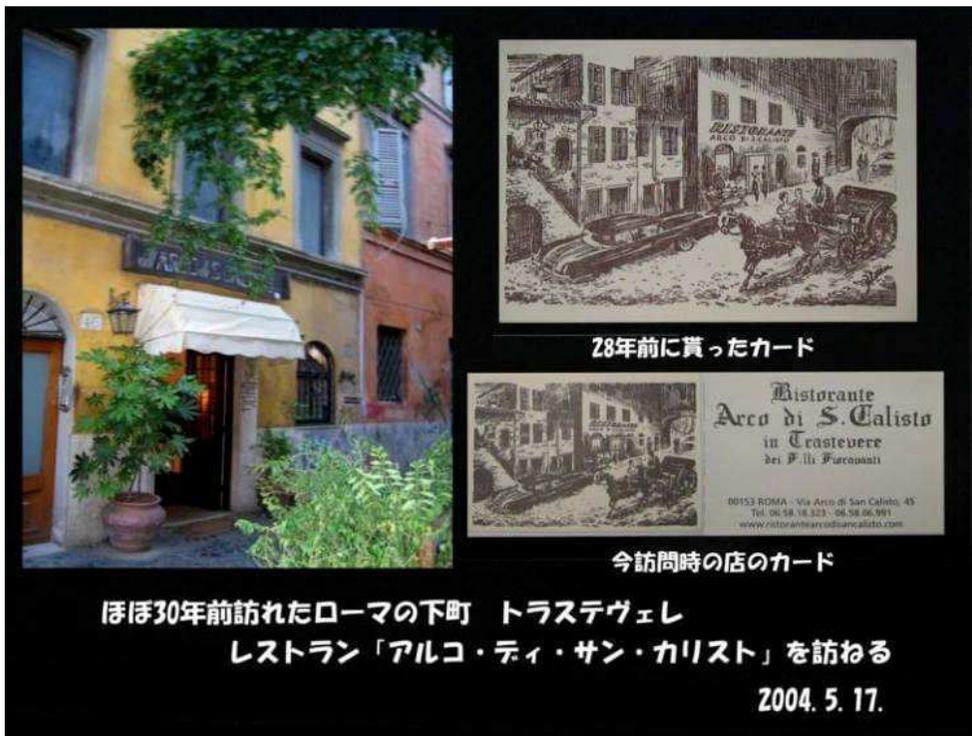


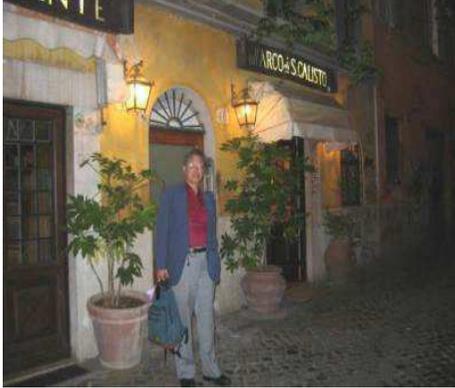
ピンチョの丘よりローマの街の眺望 2004.5.17.



ローマの街一望のピンチョの丘に登る 2004.5.17.







ほぼ30年前訪れたローマの下町 トラステヴェレ
レストラン「アルコ・ディ・サン・カリスト」を訪ねる
2004. 5. 17.

カプリ ツアー

海の青・街の白・山の緑 カプリ島

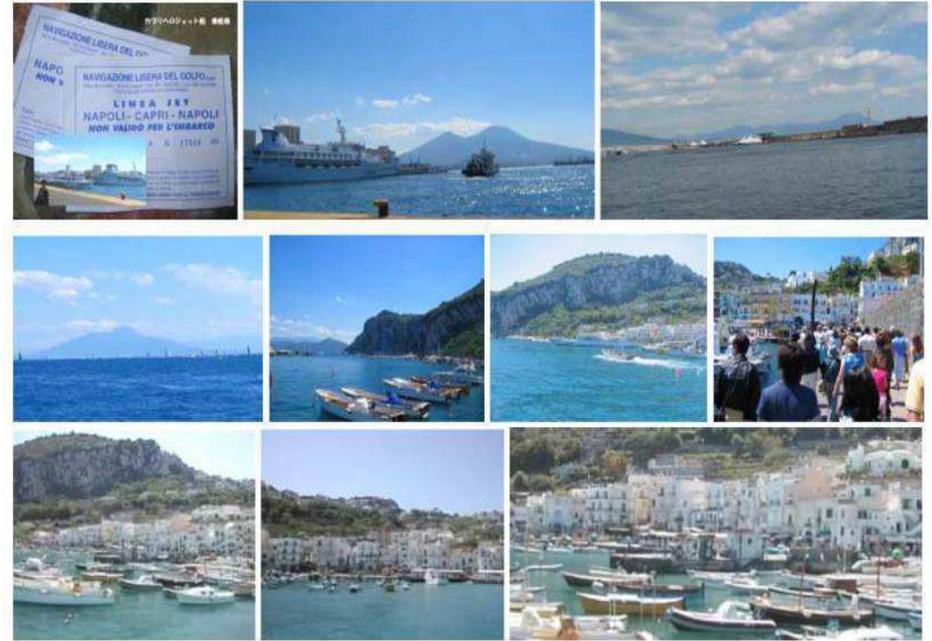
5.18. 終日

ローマからカプリ島へ 2004. 5. 18.



◆ ナポリ湾を突き切って カプリへ

2004.5.18.



◆ カプリ島ツアー

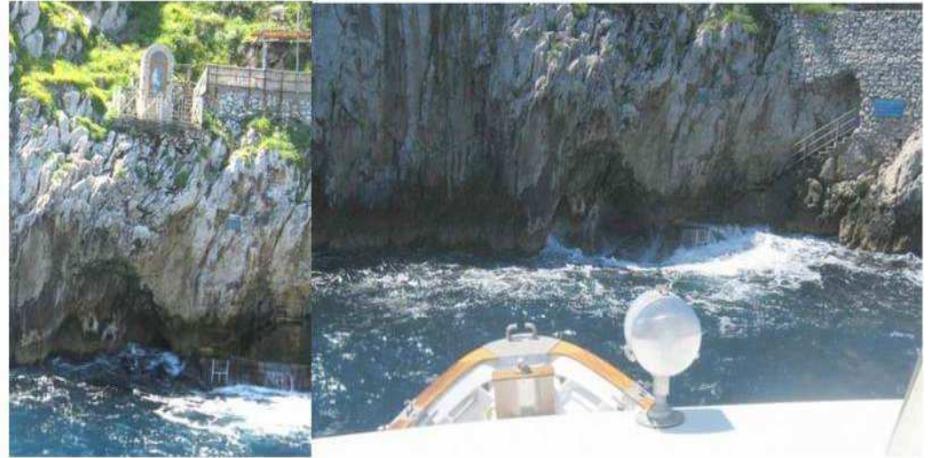
2004.5.18.





◆ 青の洞門見学

狭い入口を這って中にはいると素晴らしい青に光輝く海の洞窟が広がるという。まあ、日本人向けの名所と思う。でも、予想通りというか 洞門の中に入らず。まあ、観光資源としての高魂のたくましさに脱帽です。





はるかナポリ湾の向こうに遠く、
ポンペイのベスビオス火山を遠望



カプリ島 山の上の街 さすが観光地 大賑わい

◆ カプリの最高峰 ソラーロ山へ カプリの街から小さなバスでアナカプリの街へ そこからリフトで15分間の空中散歩





ソラーロ山リフト 空中散歩 2004.5.18



◆ 再度 リフトでラリーロ山を下る 空中散歩





◆ 「海の青」「レモン」の島 カプリ



空中散歩 眼下にはコンペキリの海そして島の緑と白い家。緑の中にレモンの畑が山肌に広がり、黄色い果実をつけていました。カプリ島は石灰岩の白い島 コンペキの海はサンゴと石灰岩が広がるこの海では微生物が育たず、透明度が維持されているからだという。島に降り立っても、海洋独特のあの磯の香りがしないのも其の精だという。

また、カプリの特産はレモン。山肌にへばりつくようにレモンやオレンジそして花の畑が広がっている。

このレモンの皮をアルコールに漬け込んで作る強いレモンリキュール「レモンチェッロ」。

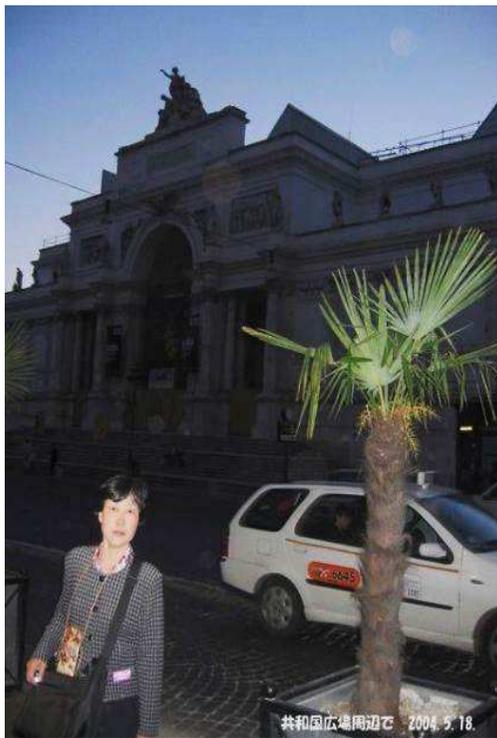
少し甘いが30度を越す強い酒。食後酒として冷やして飲む。

口当たりのよさについつい試飲を重ねて 土産に買いました。

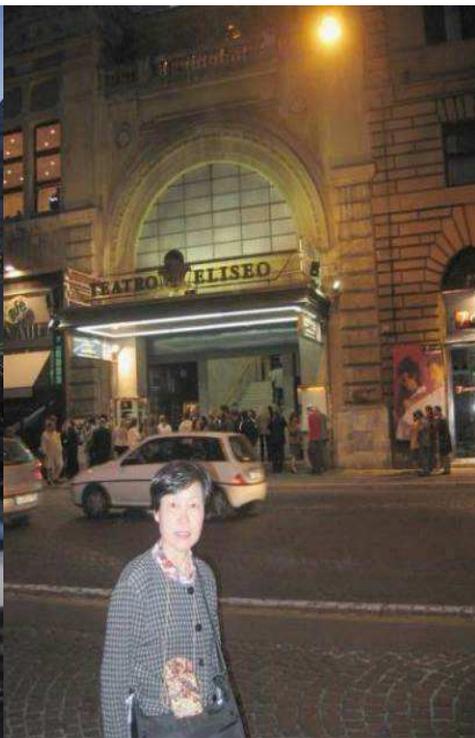


午後8時30分 夕暮れのローマに帰ってきて 共和国広場界限

明日は帰国なので、もう暗くなっていましたが、十分見られなかった所を回ろうとバスの着いたテルミネ駅からローマの街へ



共和国広場周辺で 2004. 5. 18.



フォロ・ロマーノ & ヴィットリオ エマヌエーレ2世記念堂
 クイリナーレの丘付近 2004.5. 17.夜 北のトレビの泉へ



フォロ・ロマーノ
 美しいローマのフォーラムの遺跡



クイリナーレの丘付近トラヤヌスの記念柱 への坂道



ヴィットーリオ・エマヌエーレ2世記念堂

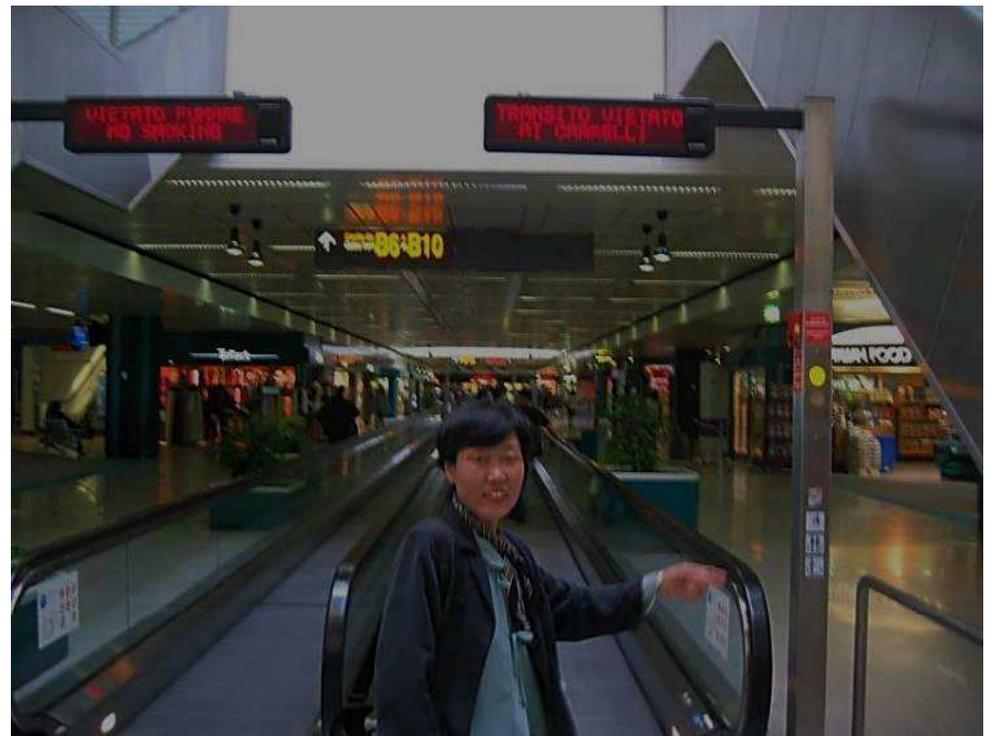
トネリア広場

トレビの泉で 2004. 5. 18. 夜

ヴィットーリオ・エマヌエーレ2世記念堂

トネリア広場

2004. 5. 18. 夜







月 日	都 市	移動・主要スケジュール
5.10 (月)	開空発 アムステルダム発 ミラノ着	KLN 88 :10:30→15:15 KLN1831:18:10 :19:55
5.11 (火)	ミラノ	午前:専用バス 市内観光 午後:自由行動 ● 最後の晚餐見学ツアー
5.12 (水)	ミラノ/ベニス	午前:専用バス 移動 ベニス観光 徒歩・船 午後:ベニス観光 徒歩
5.13 (木)	ベニス	午前:自由行動
5.14 (金)	ベニス/フィレンツェ	午前:汽車移動 午後:専用バス 市内観光
5.15 (土)	フィレンツェ	午前:自由行動 午後:● ピサ半日観光
5.16 (日)	アッシジ/ローマ	午前:専用バス 移動 ● アッシジ 観光 午後:専用バス 移動
5.17 (月)	ローマ	午前:専用バス 市内観光 午後:自由行動 ● ローマ市内観光
5.18 (火)	ローマ	● カプリ島ツアー
5.19 (水)	ローマ発 アムステルダム	KL-108 :11:45→11:45 KL-867:14:25
5.20 (木)	開空着	08:35



1.イタリアの古き町を訪ねて walk (概要 PDF file) 2004.5.11.-20.
訪問先欄の都市名をクリックしてください。 adbe pdf file でまとめた写真帳が開きます

	訪問先	walk points	滞在日
1.1	ミラノ Walk	ドゥオモと「最後の晚餐」	5.10.夕 - 5.12.朝
1.2	ヴェニス Walk	ゴンドラと水上の街walk	5.12.昼 - 5.14.朝
1.3	フィレンツェ Walk	花の都walk 街とルネッサンス	5.14.朝 - 5.16.朝
1.4	ピサ半日ツアー	ピサの斜塔とガリレオ	5.15.午後
1.5	アッシジ Walk	聖フランシスコを訪ねて	5.16.終日
1.6	ローマ Walk	ローマWalk パチカンと街角	5.16.夜 - 5.19.朝
1.7	カプリ ツアー	海の青・街の白・山の緑 カプリ島	5.18.終日
	教会にこだまする響き	ピサで素晴らしい響きの歌声が採れました	ピサの教会ドームに響く歌声

2. イタリア ルネッサンスの巨人の足跡 (概要 PDF file)

● 巨人の足跡

2	ルネッサンス 巨人の足跡	フィレンツェで甦った巨人たち	ルネッサンスの足跡、ルネッサンスの巨人たち、ルネッサンスの足跡、ルネッサンスの巨人たち
2.1	レオナルド・ダ・ビンチ	天才画聖・多能科学者 実証近代科の天才先駆者	天才画聖、多能科学者、実証近代科の天才先駆者
2.2	ミケランジェロ	天才芸術家(画家・彫刻家・建築家)	天才芸術家、画家、彫刻家、建築家
2.3	ラファエロ	聖母画家 西洋絵画の基準	聖母画家、西洋絵画の基準
2.4	ガリレオ・ガリレイ	近代科学の父	近代科学の父、ガリレオの偉業性、近代科学の父

● イタリアの街角で巨人を訪ねて

- 3.1 **レオナルドダビンチ 「最後の晩餐」鑑賞を訪ねて ミラノ**
- 3.2 **天才芸術家・科学者 ミケランジェロの作品をフィレンツェ・パチカンの街を訪ねて**
- 3.3 **聖母画家 ラファエロ 「ヒワの聖母」をフィレンツェ ウィッツイ美術館を訪ねて**
- 3.4 **近代科学の父 ガリレオ・ガリレイをピサの街を訪ねて**

項目をクリックしてください。 adbe pdf file でまとの写真幅が開きます

イタリア旅行記



フレンドリー エンジョイ イタリア11日間 2004.5.11.-5.20.



By Mutsuo & Kikuko Nakanishi